



独立行政法人 地域医療機能推進機構

熊本総合病院

JAPAN COMMUNITY HEALTH CARE ORGANIZATION (JCHO)
KUMAMOTO GENERAL HOSPITAL

診療科のご案内

令和6年4月

独立行政法人
地域医療機能推進機構
熊本総合病院の

理念

患者さまに満足される
最新の医療を情熱をもって実践する

基本方針

- 1 質の高い最新の医療を提供します
- 2 自分自身がかかりたい医療を行います
- 3 治療と癒しに情熱を燃やします

病院長挨拶

病院長 島田 信也



本年は、元旦から熊本地震を彷彿とさせる「令和6年能登半島地震」、2日に「羽田空港の日航機海保機衝突事故」が続け様に発生し、騒然とした新年となっておりますが、当院は、どのような変化が起きようとも、常に地域の皆さまが安心して医療を受けられるように貢献しております。

当院は、皆さま方のご支援によりまして、JCHO機構病院のトップクラスの診療と運営を行なっておりますが、これからも、益々の診療科の充実を図りながら、関係諸機関の先生方ならびに国の医療政策に貢献できるように、本機構の「質の高い高度地域医療のみならず地域包括ケアの推進の使命」を、医師会ならびに熊本大学教授陣の先生方そして各方面の皆さま方のご支援を賜りながら、鋭意、精進して参りたいと存じております。

そして、当院は「外来患者さんは医師会の先生方に診療していただく」という基本方針を貫いていることはいつも申し上げている通りでございますが、有難いことに、医師会の先生方から沢山の患者さんをご紹介いただいていることに心から感謝申し上げます。また、昨年春に「北館」を竣工し、年末に「本館大改修」も終わりました。当院のスタッフの「とても診療がしやすくなった」との喜びの声ですが、多くの患者さんや先生方からも「さらに素晴らしい施設と設備の病院となった上に、優秀な医療スタッフに診療してもらい大変満足し感謝している」というお言葉をいただき、益々職員のモチベーションが上がり、質の高い医療に益々拍車がかかっております。

今年度も、この診療案内をご覧頂きますとお分かりの通り、熊本大学教授陣の有難いご高配によりまして医師数も増員された上に「産科の再開」を果たし、多くの優秀な素晴らしい人材が診療にあたっております。正に名実共に、当院の診療形態である「医師主導型の質の高いチーム医療」によって、患者さんのみならずご紹介を頂く先生方にご満足いただける医療がさらに実践されることと存じます。

また、今後もさらなる質の高い高度医療の推進とともに、八代の中心市街地活性化と「まちづくり」にも少しでも貢献できればと考えております。

今後とも、どうか、わたくし共の信念である「医療と共に、公に一肌脱ぐ」「自分自身がかかりたい医療を行うという情熱」と「まちづくりへの貢献と少子化阻止」もご理解賜り、各方面の皆さま方の倍旧のご支援の程、何卒、宜しくお願い申し上げます。

令和6年4月

血液内科



診療部長

江藤 健一郎
Kenichiro Eto

- ◆専門分野
血液疾患・膠原病・感染症
- ◆所属学会
日本血液内科学会(指導医)
日本リウマチ学会(専門医)
日本内科学会(総合内科専門医)
日本がん治療認定医機構(認定医)
日本感染症学会
インフェクションコントロールドクター



医長

井崎 幹子
Mikiko Izaki

- ◆専門分野
血液疾患
- ◆所属学会
日本内科学会(認定医)
日本血液学会(指導医)
日本HTLV-1学会



医員

佐藤 靖彦
Yasuhiko Sato

- ◆専門分野
血液内科
- ◆所属学会
日本内科学会



医員

山崎 悠佑
Yusuke Yamasaki

- ◆専門分野
血液内科
- ◆所属学会
日本内科学会
日本血液学会



医員

今田 真亜子
Mako Imada

- ◆専門分野
膠原病内科
- ◆所属学会
日本内科学会
日本リウマチ学会

当科は熊本県南唯一の血液内科患者の入院を受け入れている施設であり、常時50名前後の患者様の入院診療に当たっています。7年前に無菌室を5部屋から8部屋に増床し、免疫力が極度に低下する**急性白血病や骨髄異形成症候群への強力化学療法、悪性リンパ腫・多発性骨髄腫の自家末梢血幹細胞移植、重症再生不良性貧血の患者様**をより安全に治療できるようになりました。週5日、血液内科の新患外来を行っておりますので、**血球数の異常、リンパ節腫脹、原因不明の出血傾向**など血液疾患が疑われる場合には、是非ご紹介ください。

また、**4年前にリウマチ専門医による膠原病専門外来を開設**しました。多関節痛などリウマチ・膠原病疾患が疑われる患者様がいらした場合は利用してください。ただし、**膠原病の外来日は毎週水曜日と第2・4・5金曜日**と変則的ですのでお間違いのないようよろしくお願いいたします。

令和6年度は、常勤医5名、非常勤医3名(血液専門医1名、リウマチ専門医2名)で診療を行ってまいります。非常勤医の外来診療日でも、緊急性のある病態についてはいつでも対応しますのでご連絡ください。

非常勤医師

岩永 幸太
Kota Iwanaga
毎週(水曜)外来担当

非常勤医師

遠藤 慎也
Shinya Endo
毎週(木曜)外来担当

非常勤医師

坂田 康明
Komei Sakata
毎週(水曜)膠原病専門外来担当

非常勤医師

岩倉 未香子
Mikako Iwakura
第2・4・5(金曜)膠原病専門外来担当



天井のHEPAフィルターパッケージエアコンによる空気清浄度 10,000のクリーンルーム



細菌・ウイルスに加えてパイジエロンもカットする限外ろ過膜内蔵の個室手洗い装置

増床した無菌室

呼吸器内科



部長

城基 孝之
Takayuki Jodai

- ◆専門分野
呼吸器一般
- ◆所属学会
日本内科学会(認定医)
日本呼吸器学会(専門医)
日本肺癌学会

当科では**呼吸器全般**を取り扱っています。主な疾患は**肺炎などの感染症、COPD、気管支喘息、膠原病、血管炎を含めた間質性肺炎、肺がん、睡眠時無呼吸症状群**などです。

肺がんの内科症例については化学療法と放射線治療の同時併用のようなアグレッシブな治療から、高齢者に対しては外来で施行できる程度の化学療法を行うなど**個々の体力に応じた治療**を行っております。

睡眠時無呼吸症候群は外来で終夜パルスオキシメーターでスクリーニングを行い、精査が必要な症例は1泊2日の**睡眠ポリソムノグラフ検査**を行っております。

超重症例は適時搬送するなど見極めを行い、**安全で安定した医療**を目指しています。

総合診療科



副院長

堀野 敬
Kei Horino

総合診療科とは診療科の特定できない症状を訴えられる患者さんをお受けする窓口です。痛み、しびれ、めまい、だるさ、長引く微熱(不明熱)、原因不明の体重減少、なんとなく調子が悪いなど**説明がつきにくい症状が対象**となります。当科では十分な問診と全身の診察から症状を把握し、特定の臓器・疾患に限定せず漢方医療を含めた**多角的な診療**を行っております。専門治療が必要な場合は院内のそれぞれの診療科に紹介し必要であれば**共同で診療**を行います。高齢化社会への急激な進行を踏まえ、欧米で普及している家庭医制度をひな形に**国策として整備**されてきている分野です。当院の設立母体であります独立行政法人地域医療推進機構(JCHO)の使命に「地域包括ケアの推進ならびに総合診療医の育成」があることから、この八代地域の総合医療を担う当院に必要不可欠な診療科です。当院の基本理念であります**“患者様に満足される最新の医療を、情熱を持って実践する”**の言葉通りに、いろいろな訴えのある患者さんに対しまして各科と連携して積極的に治療を進めていきたいと思っています。お気軽にお越しください。

消化器内科



副院長
よし まつ しん いち
吉松 眞一
Shinichi Yoshimatsu

- ◆専門分野
消化器一般
- ◆所属学会
日本消化器病学会(専門医)
日本消化器内視鏡学会(指導医)
日本超音波医学会(指導医)
日本内科学会(専門医・指導医)
日本プライマリ・ケア連合学会(指導医)



医 長
いし い しょう たろう
石井 将太郎
Shotaro Ishii

- ◆専門分野
消化器一般
胆膵内科
- ◆所属学会
日本内科学会
日本消化器病学会
日本消化器内視鏡学会
日本緩和医療学会



医 員
かど わき よし たか
門脇 義昂
Yoshitaka Kadawaki

- ◆専門分野
消化器一般
- ◆所属学会
日本内科学会
日本消化器病学会
日本消化器内視鏡学会



医 員
あらかわ だい すけ
荒川 大輔
Daisuke Arakawa

- ◆専門分野
消化器一般
- ◆所属学会
日本内科学会
日本消化器病学会
日本消化器内視鏡学会



医 員
まつ ばら だい ゆう
松原 大勇
Daiya Matsubara

- ◆専門分野
消化器一般
- ◆所属学会
日本内科学会
日本消化器病学会
日本消化器内視鏡学会



医 員
たじり まい
田尻 舞
Mai Tajiri

- ◆専門分野
消化器一般
- ◆所属学会
日本内科学会
日本消化器病学会
日本消化器内視鏡学会



非常勤医師
わた なべ たけ ひさ
渡邊 丈久
Takehisa Matanabe
毎週(金曜)
肝臓特殊外来担当



非常勤医師
ごとう とも ゆき
後藤 知由
Tomoyuki Goto

【診療内容】

食道、胃、小腸、大腸疾患および肝胆膵疾患を含む消化器領域の疾患全般を扱っています。令和6年度の消化器内科は吉松眞一(H1)、石井将太郎(H16)、門脇義昂(H27)、荒川大輔(H30)、松原大勇(H31)、田尻舞(H31)の6名の常勤医と熊本大学病院消化器内科渡邊丈久助教、岸千可子医師、後藤知由医師の3名の非常勤医で診療を行います。食道癌、胃癌、大腸癌については早期発見から内視鏡的治療まで、最新で高度な専門医療を提供できるように特に力を入れています。また消化管出血、腸閉塞、急性胆嚢炎、急性膵炎などの腹部救急疾患に対しても迅速に対応していきます。

【疾患別診療内容】

●食道・胃・大腸癌

食道・胃・大腸癌による死亡ゼロを目指して、胃・大腸内視鏡検査に力を入れています。平成26年度導入の内視鏡システム「EVIS EXERAⅢ」から、次世代内視鏡システム「EVIS X1」に変更いたしました。内視鏡検査件数の増加および診断能の向上に努めます。

通常の内視鏡観察に加え、狭帯域光フィルター(NBI)を用いた拡大観察により、より精度の高い癌の診断を行います。内視鏡治療では、内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)にも力を入れ、早期癌の根治を目指しています。また、ヘリコバクターピロリ菌除菌療法による胃癌の予防も積極的に行っています。

●腹部救急疾患(消化管出血、腸閉塞、急性胆嚢炎、急性膵炎など)

吐血、下血など消化管出血や腸閉塞などの緊急を要する疾患にも迅速に対応できるように救急医療にも力を入れています。出血性胃潰瘍、食道動脈瘤破裂、虚血性腸炎、大腸憩室出血などの消化管出血に対しては緊急内視鏡を行い、より侵襲の少ない内視鏡的治療で24時間対応できるように努めております。また、急性胆嚢炎、胆管炎などの緊急を要する胆道疾患に対しては、経皮的胆嚢ドレナージ、内視鏡的胆管ドレナージを速やかに行っています。また重症急性膵炎に対しては、H26年1月のICU開設により集中治療が可能となりました。H31年3月25日より小腸カプセル内視鏡システム(PillCam™ SB 3 カプセル内視鏡システム:Medtronic)を導入し、**小腸検査にも対応できるようになりました。**

●炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病など)

診断から治療まで経験豊富な専門医が対応しています。特に重症例、難治例などの治療に対しても5ASA、副腎皮質ステロイド、免疫抑制剤、吸着療法、(好中球除去療法、LCAP)、生物学的製剤(インフリキシマブ、ウスティヌマブ、ベドリスマブ等)を駆使し**積極的に治療**を行っています。

●肝臓病(B型、C型肝炎、肝癌)

毎週金曜日(午前)に熊本大学消化器内科渡邊丈久先生による肝臓専門外来を行っています。B型肝炎、C型肝炎を始め、最近注目されているNASHからの肝硬変、自己免疫性肝疾患(原発性胆汁性肝硬変、原発性硬化性胆管炎など)、その他の**難治性肝疾患の診断治療にも力を入れています。**また、**重症肝炎や劇症肝炎**に対しては血漿交換や血液濾過透析も行います。**肝細胞癌**に対しては、ラジオ波熱灼療法(RFA)、肝動脈塞栓化学療法(TACE)、分子標的治療薬を含めた抗癌剤治療も積極的に行っています。

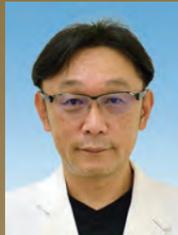
●胆膵疾患

胆道癌、膵癌に対してはエコー、CT、MRI、内視鏡的膵胆管造影検査(ERCP)を行い、**癌の早期発見に努めています。**平成28年度からX線診断装置にCアーム搭載多目的デジタルX線TVシステム「Ultimax-i」(東芝メディカル)を導入し、ERCP診断能の向上を図るほか、超音波内視鏡下吸引生検法(EUS-FNA)を行い、早期膵癌の発見に努めます。除不能進行胆道癌、膵癌に対しては放射線治療や化学療法を積極的に行います。また、進行癌に伴う閉塞性黄疸には内視鏡的胆管ドレナージ、ステント留置術を行い、QOLの改善を行います。総胆管結石の治療は内視鏡的乳頭切開術(EST)、内視鏡的乳頭バルーン拡張術(EPBD)を行い、**積極的に内視鏡的に治療**を行います。

【消化器内科外来担当医表】

月	火	水	木	金
吉松 眞一	石井 将太郎	吉松 眞一	石井 将太郎	吉松 眞一
門脇 義昂	田尻 舞	荒川 大輔	松原 大勇	門脇 義昂
				肝臓専門外来 熊大医師(渡邊)

■ 糖尿病センター（糖尿病・内分泌内科）



センター長

もとしま ひろき
本島 寛之
Hiroyuki Motoshima

- ◆専門分野
糖尿病・脂質異常症・高血圧
内分泌疾患など
- ◆所属学会
日本糖尿病学会（専門医・指導医）
日本内科学会（認定医）
日本内分泌学会



医員

みのだ まさひこ
森田 理彦
Masahiko Minoda

- ◆専門分野
糖尿病・内分泌・脂質異常症など
- ◆所属学会
日本内科学会
日本糖尿病学会
日本内分泌学会
日本医師会（認定医・産業医）



医員

ふるしょう たつや
古庄 達哉
Tatsuya Furusho

- ◆専門分野
糖尿病・内分泌疾患など
- ◆所属学会
日本内科学会
日本糖尿病学会
日本内分泌学会
日本体質医学会



医員

ふじもと ひろき
藤本 博樹
Hiroki Fujimoto

- ◆専門分野
糖尿病・内分泌疾患など
- ◆所属学会
日本内科学会
日本糖尿病学会
日本内分泌学会
日本体質医学会



非常勤医師

やまがた かずや
山縣 和也
Kazuya Yamagata

- 毎週（金曜）外来担当
熊本大学大学院生命科学研究部
病態生化学教授
- ◆所属学会
日本糖尿病学会
（専門医、指導医、学術評議員）

当センターは、**日本有数の糖尿病専門診療科**として昭和49年に開設されて以来、県南の中核施設として診療に携わり、啓発活動なども継続的に行って参りました。現在、主に扱っている疾患は、**糖尿病、脂質異常症、高血圧症、高尿酸血症、メタボリック症候群、様々な内分泌疾患（下垂体・甲状腺・副甲状腺・副腎・性腺などの疾病）**など、多岐にわたります。八代地区のみならず、宇城、人吉・球磨、天草などの地域からも、多数の患者さまが来院されています。

糖尿病や脂質異常症の診療の特徴としては、医師のみでなく看護師・栄養士・薬剤師・理学療法士等が患者さまに積極的にかかわることで、お一人お一人のライフスタイルに合わせた療養や治療を実践していくことを目指しております。単に、血糖値やコレステロール値を改善させるのみでなく、何のために血糖や脂質管理が必要なのかを理解いただき、糖尿病に特有な合併症や動脈硬化症の評価を定期的に行います。お一人お一人の血糖変動のメカニズムを考慮し、病態に最も適した治療法を提案することで、体重や血圧の管理にも成功していただけるよう、患者さま中心の診療を行っています。

糖尿病・脂質異常症・内分泌疾患の特徴として、多種多様な身体症状が併発しますので、病院内外の他診療科・医療スタッフとの連携がとても重要です。院内の眼科・循環器内科・腎センター・消化器内科・整形外科・泌尿器科・外科などと密に連携しながら、患者さまの病状に最も適した管理に努めております。また、地域で開業されている先生方とは、糖尿病地域連携パス「DM熊友パス」を用いて緊密に連携する体制がとれております。

当センターは、**日本糖尿病学会に認定された専門医育成・教育のための施設**でもあり、糖尿病専門医の育成はもとより、糖尿病療養指導士（CDE）の育成にも力を注いでおります。CDEが増加したことで、各病棟にCDEを配置でき、他診療科への入院中においても、血糖管理が十分に行える体制が整っております。さらに、患者さまの会である、日本糖尿病協会八代支部「陽光会」の活動も支援させていただいており、毎月定例の糖尿病教室を開催するなど、糖尿病療養に関する知識の普及や糖尿病の予防啓発にも尽力しております。

■ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 中耳・内耳手術センター



副センター長

くさば ゆうき
草場 雄基
Yuki Kusaba

- ◆専門分野
耳鼻咽喉科一般
- ◆所属学会
日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会（専門医）
日本めまい平衡医学会
日本頭頸部がん学会
耳鼻咽喉科臨床学会
日本気管食道科学会
日本口腔・咽頭学会



部長

かみざき よりのり
神崎 順徳
Yorinori Kamizaki

- ◆専門分野
耳鼻咽喉科領域全般・アレルギー領域
東洋医学領域・神経科領域
- ◆所属学会
日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会
（専門研修指導医、専門医）
日本アレルギー学会（指導医、専門医）
日本東洋医学会（専門医、漢方専門医）
補聴器適合判定医



医員

まぶち ひろき
馬淵 大輝
Hiroki Mabuchi

- ◆専門分野
耳鼻咽喉科一般
- ◆所属学会
日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会（専門医）
日本頭頸部がん学会
耳鼻咽喉科臨床学会



非常勤医師

みのだ りょうせい
蓑田 涼生
Ryosei Minoda

毎週（水曜午後）手術担当

平成29年度以降**耳鼻咽喉科専門医3名体制**となりました。中耳・内耳疾患の手術治療を専門とする**中耳・内耳手術センター**を開設し、内視鏡下耳科手術、人工内耳手術を行っております。

一般外来は、**平日の月曜日から金曜日までの午前中で診療**を行っています。

午後は曜日を決めて予約制で特殊外来を行っています。

（特殊外来としては、中耳・内耳・難聴外来、めまい外来、アレルギー外来、嚥下外来等を行っています。）

*嚥下検査が必要な方は、あらかじめ、当科に電話をいただくと幸いです。

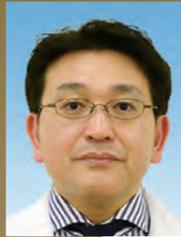
耳鼻咽喉科医が取り扱う主な疾患と治療

- 高度感音性難聴**：補聴器の装用効果がない方に対して人工内耳手術
- 中耳炎（真珠腫性中耳炎、慢性中耳炎等）**：鼓室形成術、鼓膜形成術
*内視鏡を主体として手術を行います。
- 顔面神経麻痺（バル麻痺、ハント症候群）**：薬物治療の他、高度麻痺に対して顔面神経減荷手術
- 副鼻腔炎、鼻茸、鼻中隔彎曲症、肥厚性鼻炎**：内視鏡下鼻副鼻腔手術、鼻中隔矯正術、下甲介切除術
- lgA腎症、PPPなどの病巣感染、慢性扁桃炎、睡眠時無呼吸症候群**：口蓋扁桃摘出術、軟口蓋形成術
- 声帯ポリープ**：喉頭微細手術
- 頭頸部良性腫瘍**：下咽頭良性腫瘍摘出術、中咽頭良性腫瘍摘出術、耳下腺良性手術、顎下腺良性手術、上皮小体手術等、甲状腺腫瘍手術等
- 頭頸部悪性腫瘍**：咽頭癌、喉頭癌、外耳道癌、鼻副鼻腔癌、唾液腺癌、甲状腺癌、口腔癌等に対する手術、放射線治療、化学療法、化学放射線治療等
- めまい、突発性難聴、頭頸部領域の急性感染症症例（急性扁桃炎、扁桃周囲膿瘍、頸部膿瘍、喉頭浮腫等）**：高度鼻出血等の入院治療も行っています。



内視鏡下経外耳道下鼓室形成術（TEES）

腎センター（腎臓内科）



診療部長

いのうえ ひでき
井上 秀樹
Hideki Inoue

- ◆専門分野
腎炎・慢性腎臓病・透析(血液・腹膜)
- ◆所属学会
日本内科学会(総合内科専門医・指導医)
日本腎臓学会(専門医・指導医)
日本透析医学会(専門医・指導医)
日本腹膜透析医学会
日本高血圧学会



医員

ひらの たかひろ
平野 貴博
Takahiro Hirano

- ◆専門分野
腎炎・腎不全・血液浄化
- ◆所属学会
日本内科学会
日本腎臓学会
日本透析医学会



医員

うえむら なおみち
上村 直道
Naomichi Uemura

- ◆専門分野
腎炎・腎不全・血液浄化
- ◆所属学会
日本内科学会
日本腎臓学会
日本透析医学会



医員

くらしま あい
倉嶋 愛
Ai Kurashima

- ◆専門分野
腎炎・腎不全・血液浄化
- ◆所属学会
日本内科学会
日本腎臓学会
日本透析医学会



医員

まるめ たかひろ
丸目 高大
Takahiro Marume

- ◆専門分野
腎炎・腎不全・血液浄化
- ◆所属学会
日本内科学会
日本腎臓学会
日本透析医学会

【外来診療担当医表】

月	火	水	木	金
丸目 高大	倉嶋 愛	井上 秀樹	平野 貴博	上村 直道

現在、わが国には約 1300 万人の慢性腎臓病（Chronic Kidney Disease：CKD）の患者さんがいるといわれ、これは成人の約 8 人に 1 人にあたる数です。また、CKD があると心臓病や脳卒中といった心血管合併症にもかかりやすいことがわかっています。腎臓病をもつ患者さまをなるべく早期に発見して診断し、最適な治療を受けていただけるように診療に励んでまいります。「県南随一の腎臓病・透析治療の拠点病院」として地域医療に貢献できるように活動してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

<診療内容紹介>

●急性・慢性腎疾患：蛋白尿、血尿といった検尿異常を伴う腎疾患に加えて、糖尿病や高血圧、膠原病・血管炎などに腎臓病を合併する場合があります。当センターでは腎生検による組織診断も含めた原因の検索をしっかりと行った上で、適切な治療法を提供してまいります。

●CKD 治療：CKD の進行を抑えるための食事療法や薬物療法を提供してまいります。また、CKD に合併する高血圧、浮腫（むくみ）を含めた水・電解質（ミネラル）の異常、腎性貧血、骨代謝異常などに対する治療も各種ガイドラインに沿ってきめ細やかに治療を行ってまいります。

●腎代替療法：CKD が進行して末期腎不全に至った場合には透析や腎移植といった腎代替療法が必要になります。安心して治療を受けていただけるように、専門スタッフがそれぞれの治療についてわかりやすく説明いたします。当センターでは、血液透析、腹膜透析のどちらにも対応できる診療体制を取っており、最新の透析装置や情報管理システムを導入し、感染症対策などの衛生管理も徹底することで質の高い透析治療を提供しております。また、多臓器不全や最重症例に対する持続的血液濾過透析や血漿交換、免疫吸着療法、敗血症に対するエンドトキシン吸着といった多様な血液浄化療法も行っております。

●透析関連手術：血液透析を受けていただく上で必要なブラッドアクセスの作製、再建といった手術や経皮的血管拡張術（PTA）を行っております。当センターでは腹膜透析関連の手術も行っており、これらの手術件数は年間 700 件以上を超えています。これは熊本県内でもトップクラスの件数です。



外来待合



人工透析室

■ 循環器内科



診療部長 兼
救急救命部長

うえむら たかし
上村 孝史
Takashi Uemura

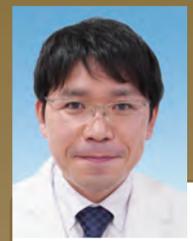
- ◆ 専門分野
循環器全般
- ◆ 所属学会
日本循環器学会（専門医）
日本内科学会（総合内科専門医）
日本心臓リハビリテーション学会（指導士）
日本心臓血管インターベンション学会（認定医）



医 長

ふくしま りゅういちろう
福嶋 隆一郎
Ryuichiro Fukushima

- ◆ 専門分野
循環器全般
- ◆ 所属学会
日本循環器学会（専門医）
日本内科学会（認定医）
日本心臓リハビリテーション学会（指導士）
日本心臓血管インターベンション学会（認定医）



医 長

くろかわ ひろふみ
黒川 博文
Hirofumi Kurokawa

- ◆ 専門分野
循環器全般
- ◆ 所属学会
日本循環器学会（専門医）
日本内科学会（専門医）
日本心臓リハビリテーション学会（指導士）
日本心臓血管インターベンション学会（認定医）



医 長

きやま たくや
木山 卓也
Takuya Kiyama

- ◆ 専門分野
循環器全般
- ◆ 所属学会
日本内科学会
日本循環器学会
日本不整脈学会

非常勤医師

まつざわ やすし
松澤 泰志
Yasushi Matsuzawa

毎週（火曜）外来担当

近年、「心不全パンデミック」と称される心不全の増加が全国的にも課題となっており、ここ八代でも症例が増加した状態が続いております。本年度も急性期治療から慢性期治療、そして在宅や施設へ、と八代地域の医療機関や介護施設と連携して対応していくことを目標としています。また引き続き24時間体制で緊急性の高い疾患に対応すること、月曜から金曜まで毎日新患外来を開き受診や紹介のハードルを低くして地域医療に貢献したいと考えています。

- <診療内容紹介>
- 虚血性心疾患（狭心症や心筋梗塞）**：診断目的の検査として心臓CTと心エコー検査を実施することが増えていきます。その他、負荷心電図、心筋シンチグラムなど非侵襲的な検査で診断していきます。必要な場合は入院検査である心臓カテーテル検査をおこない、適応があれば心臓カテーテル治療や心臓血管外科による外科治療を選択していきます。昨年、心血管造影装置が更新し、少ない造影剤と放射線被ばくで検査や治療を行うことで患者様の身体的負担を減らせるようになりました。
 - 心不全**：「呼吸がしにくい」「息切れ」「足がむくむ」という症状で発見されることが多く、レントゲン写真や心エコー検査や血液検査で診断に至ります。病状によって入院が必要な場合、外来で改善する場合があります。治療方針は心不全の原因となる疾患に応じて選択することになります。心不全治療には多職種で構成されたハートチームが病状の改善や退院にむけて支援する体制をとっています。
 - 不整脈**：検査としては心電図、24時間心電図、植込み型ループレコーダーなどで診断していきます。徐脈性不整脈（脈がゆっくりの不整脈）にたいするペースメーカー植込み術は約1週間の入院期間です。頻脈性不整脈（脈がはやい不整脈）に対しては他施設と連携してカテーテル治療（カテーテルアブレーション）を提案することもあります。
 - 末梢動脈疾患**：下肢動脈の狭窄により下肢痛や冷感、皮膚潰瘍の原因となることがあります。エコー検査やCT検査によって診断可能です。適応があるときはカテーテル治療や外科治療で血流の改善を図ります。
- ◎明らかな胸部症状ばかりでなく「知り合いが心臓病になって気になったから調べたい」「最近、なんか息切れがする」「検診で血圧や心電図をチェックされたが一度みてほしい」「心機能評価して欲しい」など気軽に相談できる循環器科を目指しています。気になったら一度外来受診をさせていただきます。

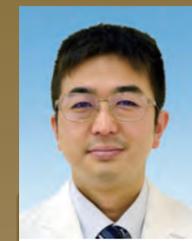
■ 心臓血管外科



非常勤医師

ふくい としひろ
福井 寿啓
Toshihiro Fukui

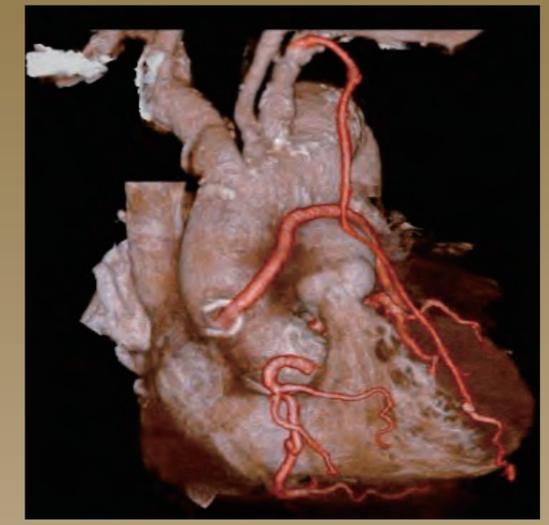
- 熊本大学大学院生命科学研究部
心臓血管外科教授
- ◆ 所属学会
日本外科学会（評議員）
日本循環器学会（評議員）
日本胸部外科学会（評議員）
日本心臓病学会（評議員）
日本心臓血管外科学会（評議員）
日本冠疾患学会（評議員、雑誌編集委員）
日本冠動脈外科学会
日本血管外科学会
日本人工臓器学会
日本AHVS/OPCAB研究会（幹事）
日本胸部外科学会九州地方会（評議員）
日本血管外科学会九州地方会（世話人）
The Asian Society for Cardiovascular and Thoracic Surgery
The European Association for Cardio-Thoracic Surgery
The Society of Thoracic Surgeons



医 長

つげ しゆんすけ
柘植 俊介
Syunsuke Tsuge

- ◆ 専門分野
心臓血管外科一般
- ◆ 所属学会
日本心臓血管外科学会
日本外科学会
日本胸部外科学会
日本血管外科学会
日本冠疾患学会

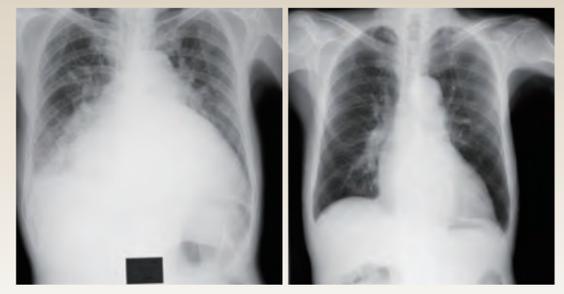


冠動脈バイパス血管のCT画像

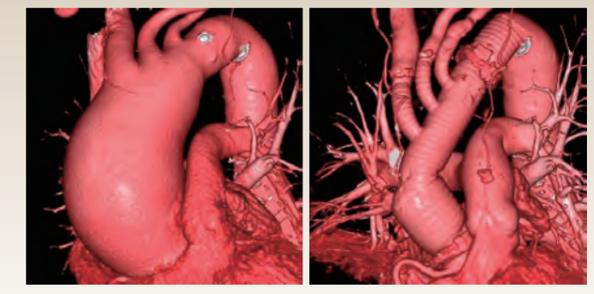
心臓血管外科では、**心臓疾患、胸部・腹部大動脈疾患ならびに末梢血管に対する外科手術**を取り扱っています。具体的には、虚血性心疾患（狭心症や心筋梗塞）に対する冠動脈バイパス手術や左心室形成術、弁膜症に対する弁形成術や弁置換術、心房細動に対するメイズ手術、肥大型心筋症に対する心筋切除術、収縮性心膜炎手術、心臓腫瘍手術、大動脈疾患（大動脈瘤、大動脈解離）に対する人工血管置換術、閉塞性動脈硬化症に対する下肢バイパス手術、下肢静脈瘤手術など多くの領域を手がけています。当科は「**高いレベルの心臓血管外科治療を地域住民の方々に安全に提供する**」ことを目標に掲げており、病院全体でのチーム医療という考えで日々の診療に取り組んでいます。手術前は心臓血管外科医、循環器内科医、病棟看護師が連携し、手術時は心臓血管外科医、麻酔科医、臨床工学士、手術室看護師が連携し、手術後は心臓血管外科医、理学療法士、ICU・病棟看護師が連携し共同作業を行うことで、**入院から退院まで安心して身を委ねられる医療**を目指していきます。

現在、熊本大学心臓血管外科の支援のもと、大動脈解離、大動脈瘤破裂などの緊急手術を行える体制を整えており、救急車やドクターヘリによる急患の受け入れや手術も積極的に行っています。フォロー中の患者様についてのご相談等ございましたら、いつでもご連絡ください。

僧帽弁形成術による心不全の改善効果
（手術前） （手術後）



人工血管による胸部大動脈瘤手術
（手術前） （手術後）



脳神経外科



副院長
こが かずなり
古賀 一成
Kazunari Koga

- ◆ 専門分野
脳血管障害・脳神経外科一般
- ◆ 所属学会
日本脳神経外科学会(専門医・指導医)
日本脳卒中学会(専門医・指導医)
日本脳神経外科コンgres
日本脳卒中の外科学会
日本脳腫瘍病理学会
日本脳ドック学会
日本老年脳神経外科学会
日本神経内視鏡学会



医 長
あま だつ とし ひろ
天達 俊博
Toshihiro Amadatsu

- ◆ 専門分野
脳神経外科一般・脳血管障害
- ◆ 所属学会
日本脳神経外科学会(専門医・指導医)
日本脳卒中学会(専門医)
日本脳神経血管内治療学会(専門医)
日本脳神経外科コンgres
日本脳神経外傷学会



医 員
たに ぐち あゆみ
谷口 あゆみ
Ayumi Taniguchi

- ◆ 専門分野
脳神経外科一般
- ◆ 所属学会
日本脳神経外科学会(専門医)
日本脳卒中学会
日本脳神経外科コンgres
日本神経内視鏡学会
日本脳卒中の外科学会
日本血管内治療学会

当科は3名の脳神経外科専門医で脳血管障害・頭部外傷・脳腫瘍・機能的疾患などの診療を行っています。脳血管障害や頭部外傷等において開頭手術や血管内手術が緊急に必要な場合でも、休日夜間を問わずに対応できる体制をとっています。特に昨年度からは脳血管内手術が常時可能な県内で唯一の施設となり、脳梗塞超急性期治療(機械的血栓回収療法)や脳動脈瘤コイル塞栓術の件数が飛躍的に増加しています。

【脳神経外科で扱う主な疾患】

○ 脳血管障害(くも膜下出血、脳動脈瘤、脳出血、脳梗塞など)

くも膜下出血の原因である脳動脈瘤の治療は、動脈瘤の部位や形状に応じて開頭クリッピング術または血管内治療(コイル塞栓術)のいずれか最適な治療法を選択します。脳出血では神経症状や血腫量などを症例ごとに検討し、血腫除去術が必要な場合に開頭術・神経内視鏡手術・定位脳手術のいずれか適切な治療法を選択します。脳血管障害の予防的治療として未破裂脳動脈瘤の手術や頸動脈狭窄病変に対する血行再建術(CEA、CAS)さらに脳主幹動脈の狭窄/閉塞に対するバイパス手術なども行っています。

○ 頭部外傷(脳挫傷、急性硬膜下血腫、慢性硬膜下血腫など)

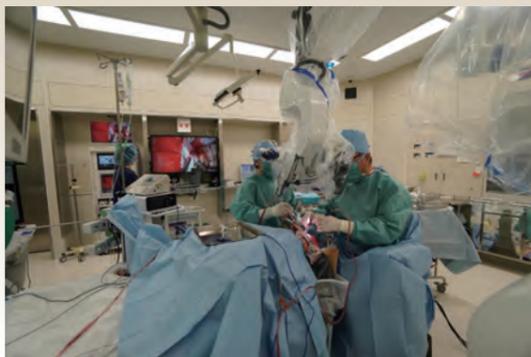
頭蓋骨骨折、脳挫傷、急性硬膜下血腫、慢性硬膜下血腫などの頭部外傷では緊急に開頭血腫除去術を行うことがあります。また頭部打撲から1~3ヶ月経過して発症する慢性硬膜下血腫には穿頭血腫除去術を行っています。

○ 脳腫瘍(髄膜腫、神経鞘腫、下垂体腺腫、グリオーマなど)

髄膜腫や神経鞘腫などの良性脳腫瘍で神経症状がある場合には、部位や大きさなどを考慮して脳腫瘍摘出術または放射線治療(ガンマナイフなど)を選択します。グリオーマなどの悪性脳腫瘍で集学的治療が必要な場合には熊本大学病院脳神経外科と連携して治療を行っています。

○ 機能的疾患(三叉神経痛、片側顔面けいれん、正常圧水頭症など)

三叉神経痛や片側顔面けいれんでは、まずMRIによる精査を行います。神経を圧迫するもの(主に血管)があれば微小血管減圧術を行います。また認知症や歩行障害などをきたす特発性正常圧水頭症に対してLPシャント術やVPシャント術を積極的に行っています。

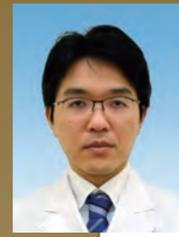


脳神経内科



診療部長
いけ の こう いち
池野 幸一
Koichi Ikeno

- ◆ 専門分野
脳血管障害、脳神経内科全般
- ◆ 所属学会
日本神経学会(専門医・指導医)
日本内科学会(認定医)
日本脳神経血管内治療学会(専門医)
日本脳卒中学会(専門医・指導医)



医 員
おか ざき たか ひろ
岡崎 孝広
Takahiro Okazaki

- ◆ 専門分野
脳神経内科
- ◆ 所属学会
日本神経学会
日本神経学会
日本脳卒中学会

非常勤医師
み すみ よう へい
三隅 洋平
Yohei Misumi
毎週(水曜)外来担当

非常勤医師
ふ だう あお い
不動 藍生
Aoi Fudo
毎週(木曜)外来担当

『脳神経内科』は、脳、脊髄、末梢神経、筋肉などに由来する疾患を対象とする内科の分野です。専門分野は、脳神経内科全般、脳血管障害(脳卒中)、脳血管内治療で、脳神経内科に関わるあらゆる分野に対応できます。2名の常勤医で診療していきます。

構音障害、嚥下障害、手足のしびれ、ふるえ、歩行障害といった幅広い症状の患者さんの診断・治療を行います。各種症状の原因も脳血管障害、神経筋変性疾患、炎症性疾患、感染症など非常に多彩です。まれな疾患の神経難病に限らず、生活習慣病に由来する脳卒中などを診療する専門科でもあります。熊本大学病院脳神経内科との連携も行っています。

「脳卒中・循環器病対策基本法」が2018年末に成立し、2019年12月に施行されました。同法の基本理念の中で、「全国どこでも適切な救急搬送・救急受診によって速やかに急性期医療が開始され、維持期まで継ぎ目なく継続されること」が示されました。

当院では脳梗塞の超急性期治療として、血栓を溶かす薬を発症から4.5時間以内に投与する「血栓溶解療法」を2015年から開始し、血栓が詰まった血管にカテーテルを入れて血栓を絡め取る「血管内治療」を2020年から開始し、八代医療圏で脳梗塞の治療が完遂できるようになりました。他院からの転院搬送および治療も行っています。

当科でも頸動脈狭窄症に対する頸動脈ステント留置術も可能ですので脳神経外科と連携して、治療適応(頸動脈内膜剝離術、頸動脈ステント留置術、内科的治療)を決めています。

八代医療圏の脳神経系の疾患とくに脳卒中治療に貢献できるように継続して努めてまいりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

なお、当科の外来診療日は、月・水・木・金となっていますが、急患はこの限りではありません。直接当科医師にご連絡いただきましたら対応させていただきます。



血管造影 X線診断装置 Azurion(PHILIPS社製)



320列CT

最新鋭の血管撮影装置および320列CT撮影装置を用いて脳血管内治療(経皮経管的脳血栓回収療法、頸動脈ステント留置術、脳動脈瘤コイル塞栓術など)を行っています。

外科



病院長

しまだ しんや
島田 信也
Shimo Shinya

- ◆専門分野
消化器外科・腫瘍外科・一般外科
- ◆所属学会
熊本大学医学部 臨床教授
アメリカ癌学会 (Active member)
アメリカ外科学会認定専門医 (Fellow)
厚生労働省認定外国人指導医師
日本外科学会 (指導医・専門医・認定医)
日本消化器外科学会 (指導医・専門医・認定医)
日本消化器病学会 (指導医・専門医・認定医)
日本消化器病学会
(指導医・専門医・認定医・九州支部評議員)
日本消化器内視鏡学会 (指導医・専門医)
日本がん治療認定医機構 (認定医・教育医)
日本胃癌学会 (評議員)
日本消化器癌発生学会 (評議員)
消化器がん外科治療 (認定医)
日本医師会認定産業医
腹膜播種治療支援機構 (幹事)
日本癌学会・日本癌治療学会・日本食道学会
日本大腸肛門病学会・日本外科系連合学会
日本臨床外科学会・日本内視鏡外科学会



副院長

ほりの けい
堀野 敬
Kei Horino

- ◆専門分野
一般外科・消化器外科・肝胆膵外科・総合診療科
- ◆所属学会
熊本大学医学部 臨床教授
アメリカ外科学会認定専門医 (Fellow)
日本外科学会 (認定医・専門医・指導医)
日本消化器外科学会 (認定医・専門医・指導医)
日本消化器病学会 (専門医・指導医)
日本肝胆膵外科学会 (評議員)
日本がん治療認定医機構 (認定医・暫定教育医)
消化器がん外科治療認定医
日本痔瘻学会 (認定指導医)
日本胆道学会 (認定指導医)
日本肝臓学会 (専門医・指導医)
日本乳癌学会
日本臨床外科学会
日本癌治療学会
日本救急医学会
九州外科学会 (評議員)
臨床研修プログラム責任者
がん医療ネットワークナビゲーター指導責任者
緩和ケア及びケアチーム研修会修了
JATECコース修了
看護師特定行為研修指導者
熊本県臓器移植院内コーディネーター
高齢者医療研修会修了
面接指導実施医師



部長

いけしま さとし
池嶋 聡
Satoshi Ikesima

- ◆専門分野
一般外科・消化器外科
- ◆所属学会
日本外科学会 (指導医・専門医)
日本消化器外科学会 (指導医・専門医)
日本がん治療認定医機構 (認定医)
消化器がん外科治療 (認定医)
緩和ケア研修会修了
マンモグラフィ読影認定医
日本肝胆膵外科学会
日本内視鏡外科学会
日本癌治療学会
日本消化器病学会
日本消化器内視鏡学会
日本臨床外科学会
日本胃癌学会
日本大腸肛門病学会



内視鏡外科部長 兼 集中治療診療部長

もりた けいすけ
森田 圭介
Keisuke Morita

- ◆専門分野
一般外科・消化器外科・内視鏡外科・ロボット支援手術
- ◆所属学会
日本外科学会 (指導医・専門医)
日本消化器外科学会 (指導医・専門医)
日本内視鏡外科学会 (技術認定医)
消化器がん外科治療 (認定医)
消化器がん外科治療 (認定医)
日本癌治療学会
日本消化器病学会
日本胃癌学会
Certificate of da Vinci System
Training As a Console Surgeon
日本内視鏡外科学会ロボット支援手術認定プロクター (画像・胃・結腸)
日本ロボット外科学会



医 長

なかむら けんいち
中村 健一
Kenichi Nakamura

- ◆専門分野
一般外科・消化器外科
- ◆所属学会
日本外科学会 (専門医)
日本消化器外科学会 (専門医)
日本がん治療認定医機構 (認定医)
日本内視鏡外科学会
日本癌治療学会
日本胃癌学会
日本食道学会
日本消化器病学会



医 員

うえむら のりお
上村 紀雄
Norio Uemura

- ◆専門分野
消化器外科・肝胆膵外科
- ◆所属学会
日本消化器外科学会 (専門医)
日本外科学会 (専門医)
日本がん治療認定医機構 (認定医)
消化器がん外科治療 (認定医)
緩和ケア研修会修了
日本消化器病学会 (専門医)
日本肝胆膵外科学会
日本内視鏡外科学会



医 員

さいしやうじ ひとし
最勝寺 仁志
Hitoshi Saishoji

- ◆専門分野
一般外科・呼吸器外科
- ◆所属学会
日本外科学会
日本胸部外科学会
日本呼吸器外科学会
日本呼吸器内視鏡学会



医 員

おの こうすけ
小野 浩輔
Kosuke Ono

- ◆専門分野
一般外科・消化器外科
- ◆所属学会
日本消化器外科学会
日本外科学会
日本消化器病学会
日本内視鏡外科学会
日本癌治療学会
日本胃癌学会
日本肝臓学会

呼吸器外科



非常勤医師

すずき まこと
鈴木 実
Makoto Suzuki

- ◆専門分野
呼吸器外科
呼吸器腫瘍 (肺がん、中皮腫)
- ◆所属学会
日本外科学会 (指導医・専門医)
日本胸部外科学会 (認定医・指導医)
日本呼吸器外科学会 (認定医・専門医)
日本呼吸器内視鏡学会 (気管支鏡指導医・専門医)
日本がん治療認定医機構 (認定医・暫定教育医)
日本医師会認定産業医



医 長

まついし けんたろう
松石 健太郎
Kentaro Matsuishi

- ◆専門分野
呼吸器外科・一般外科
- ◆所属学会
日本外科学会 (専門医)
日本胸部外科学会
日本呼吸器外科学会
日本肺癌学会
日本呼吸器内視鏡学会
日本内視鏡外科学会
日本気胸・嚢胞性肺疾患学会

当科では消化器（消化管及び肝胆膵）外科を中心に、乳腺内分泌外科、呼吸器外科なども含めた一般外科として幅広く対応できる体制をとっています。特に、食道癌、胃癌、大腸癌（結腸癌及び直腸癌）、肝臓癌、胆道癌、膵臓癌、乳癌などの悪性疾患に対して**地域がん拠点病院**としての責務を果たせるよう最新かつ最先端の治療を取り入れています。また、消化管潰瘍穿孔、急性虫垂炎、イレウス、胆石症、ヘルニア各種、肛門疾患などの急性や慢性疾患に対する手術も迅速に幅広く行っております。

胃癌・大腸癌に対して当院では腹腔鏡下切除を標準術式としており、**手術支援ロボット da Vinci** も効率的に運用しています。**食道癌や肝臓癌、膵臓癌**に対しても積極的に**内視鏡下手術**を取り入れ**低侵襲手術**を目指しています。

進行癌に対しては、**薬物療法や放射線治療などを併用して集学的な治療**を行っており、治癒切除可能なものは積極的に拡大手術まで行い癌の根治を目指しています。**高度進行癌**に対しては**術前化学療法**を行い腫瘍縮小後に根治手術を行っており、また**肝臓や肺転移を伴う場合は、転移巣切除**まで念頭においた薬物療法を行い切除可能なものは極力切除し予後改善を図っています。また**切除不能進行癌**に対しての**バイパス手術や人工肛門造設術**などの緩和手術にも積極的に取り組んでおり、積極的にA C P (人生会議)に取り組み鎮痛などの症状緩和を中心に他職種一丸となったチーム医療でQOL (生活の質)の改善を目指しています。

膵頭部癌、下部胆管癌、十二指腸乳頭部癌、十二指腸癌などの膵頭部領域の悪性腫瘍に対しては症例によって術前化学療法を行った後に大血管の切除再建を併施するなど完全切除を目指した膵頭十二指腸切除術を行っており、安全かつ根治性の高い治療を目指しています。また**巨大な肝細胞癌や肝門部胆管癌**に対しても積極的に肝切除術を行っており、術前の門脈塞栓術や最先端画像機器を用いた詳細な術前評価などによって有効性、安全性を担保した肝切除が可能な県南屈指の施設でもあります。

当院の誇れる設備の一つが手術室です。24時間対応の良好な環境の元毎日効率よく様々な手術が行われています。各部屋には高画質・高スペックの画像システム、術前や術中の検査画像や迅速病理所見などを同時に表示できる吊り下げ型モニターや手術支援ロボット da Vinci Xi など様々な**最新のシステムが導入**されており、さらに拡充工事も終了してより質の高い手術に対応できるように整備されています。このような充実した手術環境を最大限に生かしたクオリティーの高い手術を常に心がけることで、患者様は元よりご家族までもが**“十分に満足できる治療”**を常に提供できるように日々努力しております。

“八代地域住民の疾患は熊本総合病院で治す！”というモットーはこれからも変わらず、全ての患者様とご家族に十分に満足頂ける地域完結型の質の高い医療を常に提供できるよう日々精進してまいります。何かありましたらいつでもお気軽にご相談ください。



熊本大学呼吸器外科 鈴木実(すずきまこと)です。2018年7月より週1回熊本総合病院における呼吸器外科外来および手術のお手伝いをさせていただいています。

原発性肺がんや転移性肺がん(大腸がん肺転移を中心に)に対する胸腔鏡(カメラ)を利用し、小さな創から肺葉切除や区域切除などの根治手術を行う)手術を中心に行っています。

何かお困りのことがありましたら、ご相談ください。なお、鈴木不在の場合も、もう一人の呼吸器外科スタッフか外科常勤医が相談をお受けします。

泌尿器科



統括診療部長
かわかみ しげあき
川上 茂生
Shigeaki Kawakami

- ◆専門分野
泌尿器科一般（但し小児は除く）
- ◆所属学会
日本泌尿器科学会（指導医・専門医）



非常勤医師
ほんだ じろう
本多 次朗
Jiro Honda

毎週（水曜）外来担当



医 長
ふたくち よしき
二口 芳樹
Yoshiki Futakuchi

- ◆専門分野
泌尿器科一般
- ◆所属学会
日本泌尿器科学会（専門医）
日本泌尿器内視鏡学会
日本尿路結石症学会



医 員
いしざき ひろし
石崎 宏志
Hiroshi Ishizaki

- ◆専門分野
泌尿器科一般
- ◆所属学会
日本泌尿器科学会



令和2年4月からは、常勤3人と非常勤1人（1人は週1回の勤務）の体制となり診療を行なっています。主な診療内容は泌尿器科一般（小児を除く）の診断治療を行っています。

泌尿器科癌のすべてに外科的治療、化学療法および放射線治療などあらゆる治療法を実施しています。
前立腺癌は、腫瘍マーカー高値の症例には、必ずMRI検査を行った後に前立腺生検（12カ所採取）を実施し組織型を確認した後に適応症例に関しては**手術支援ロボット『ダ・ヴィンチ』**を用いた手術を主に実施していますが、ホルモン療法や放射線療法など個々の症例に合わせて柔軟に対応しています。

腎癌症例は、大きさや形状から判断し、部分切除可能な場合には、腎臓を温存することに努めています。不幸にも転移のある症例や術後再発した症例の場合には、分子標的薬やインターフェロンを用いた免疫・化学療法を外来主体で実施しています。

腎癌・腎盂尿管癌の症例において摘出術が必要な場合は全て**腹腔鏡**による腎摘出術を行っています。
膀胱癌の場合には、可能な限り膀胱を温存するようにしており、抗癌剤の動脈注療法+放射線療法などの治療も行っていきます。

将来的には**手術支援ロボット『ダ・ヴィンチ』**を用いた膀胱全摘出術を実施する所存であります。
結石症例は、第一選択として体外衝撃波結石破砕術（ESWL）を選択し外来での治療が可能となっています。結石の部位、大きさ及び性状によっては、経尿道的砕石術（TUL）もしくは経皮的腎結石砕石術（PNL）など最適な治療を選択し実施しています。

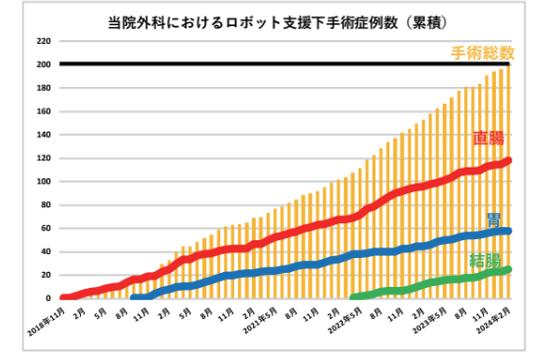
高齢化が進む昨今では、**排尿障害**を主訴に来院される患者さまも増加しております。最適な治療法を選択するための検査として、ウロダイナミック装置および自然の排尿状態に近づかせるためのTOT0社製の便座型のウロフロメトリ装置を設置しています。またウロダイナミック検査は、排尿機能検査士により実施しています。

最新型ダヴィンチ手術(外科・泌尿器科・婦人科)

外科

「**胃癌および直腸癌に対する最新型ダヴィンチ・ロボット支援手術について**」
内視鏡外科部長 森田 圭介
当院では2018年8月より直腸がん手術に対して、2019年9月から胃がん手術に対して、また2022年4月からは熊本では初となる結腸がん手術に対して最新機種「ダヴィンチ Xi サージカルシステム」を導入し、約5年6か月が経過しました。今回は当院におけるダヴィンチ・ロボット支援手術の現況についてご紹介させていただきます。

ダヴィンチ手術は熊本県内では3番目の導入病院（最新型は初）であり、直腸がん手術においては従来の開腹手術と比べ、直腸に密接する神経を繊細かつ丁寧に温存することが可能となり、術後の排尿・性機能の保持や早期の回復が期待されます。また胃がん手術においては従来の腹腔鏡下手術に比べて、胆汁漏れや腹腔内膿瘍など術後合併症の発生率が半分以下になったという科学的データもあり、メリトの大きい術式であるといえます。結腸癌がん手術においてはロボットの特性を生かし、お腹の中で腸管吻合を行うことで、より傷の小さな手術が可能となりました。2024年3月時点で直腸がん手術は118例、胃がん手術を58例、結腸がん手術を25例行い、外科におけるダヴィンチ手術は200例を超え、順調に進捗しております。また日本内視鏡外科学会が認定するプロクター（手術指導医）を取得し、これからはますます安全かつ低侵襲なダヴィンチ手術の普及に努め、患者様の福祉に貢献できる様に邁進して参ります。当院では、すでに直腸癌・胃癌や結腸癌手術ではダヴィンチが従来の手術と比べてかわるものになっておりますが、腫瘍の位置や大きさによっては従来の開腹手術や腹腔鏡手術が適する場合がありますので、個々の患者様の最適な手術については受診時にご相談ください。

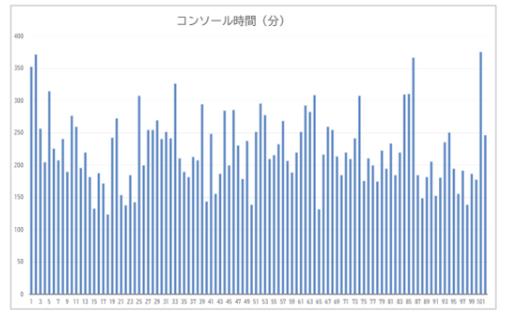


- ダヴィンチ胃癌手術の特徴について～従来の開腹手術との比較～
- ①傷が小さく痛みが軽度で、手術後の回復が早く入院期間が短い
 - ②手術中の出血量が少ない
 - ③胆汁漏れ等の術後合併症が少ない
 - ④ロボット鉗子操作により繊細な手術が可能
 - ⑤手術費用は従来と同様

泌尿器科

「**前立腺全摘ダヴィンチ手術**」
統括診療部長 川上 茂生
平成30年11月に第1例のロボット支援下前立腺全摘出術（RARP）を開始し、順調に症例数が増え**2024年1月現時点で130例**を越すことが出来ました。

令和4年より常勤医全てがオペレーターの資格を有し手術を実施しております。各々が経験を積むことでコンソール時間（ロボットを操作している時間）が徐々に短縮しましたが、経験値を積むことでリンパ節郭清や神経温存などの症例も増えてきております。また、腹腔内操作だけではなく症例によっては後腹膜腔内操作による手術も行なっております。そのためコンソール時間の延長などが時折見られていますがこれも各術者が経験を積むことで短縮が可能と思われまます。前立腺のみ摘出した症例では明らかに短縮しており開腹術と比べ遜色のないものだと思います。



RARPにおいて術中・術後に輸血を要するような出血は無く全例で輸血を行っていません。術後6もしくは7日目に膀胱造形を実施し膀胱尿道吻合部のリークを確認していますが、数例で膀胱尿道吻合部にリークがありバルーン除去が1週間延長しただけで他問題になるような合併症を認めてはしません。これも開腹術に比べおおよそ1週間ほど早期に除去できています。その結果、入院期間も1週間ほど短くなりました。術後の尿漏れも開腹術の頃と比べると程度が軽度で1年後の状況を聞いてもほとんど気にならない程度だと返答を得ています。また、バルーン除去直後より尿もれない症例も経験しています。
侵襲の少ない手術のため術後の回復も早く、早期に社会復帰も可能になりました。
前立腺全摘ダヴィンチ手術前立腺全摘術におけるゴールデンスタンダードと言っても過言ではないと思われまます。これからも多数の症例をご紹介いただければ幸甚です。

婦人科

「**婦人科ロボット支援下子宮全摘術**」
病院長補佐兼婦人科部長 東矢 俊光
熊本総合病院は、第4世代と言われる最新モデルのダヴィンチ Xi を導入しており、外科や泌尿器科領域のロボット手術に積極的に取り組んできました。

婦人科領域でも2021年10月より子宮筋腫、子宮内膜症、子宮頸部異形成などの良性腫瘍に対する子宮全摘術を開始しております。婦人科領域では熊本県内で熊本大学病院、熊本赤十字病院と当院の3施設しかありません。現在30例に行っていますが、ほぼ順調に施行できております。今後、さらに症例を積み重ねていきたいと思っております。対象疾患もできれば広げていきたいと計画しております。患者さんをご紹介頂ければ幸いです。ダヴィンチは高度なロボット工学技術を駆使した、最先端の手術支援ロボットです。術者は3Dモニター画面を見ながら、あたかも術野に手を入れているような感覚で手術を行います。高解像度の拡大3D映像をもとに、手ブレのない手術手技が可能であるため、「人間の目と手の限界を超えた手術であり、現時点で最高レベルの低侵襲手術」と言えます。傷が小さいため術後の痛みが少なく、早期離床が可能で、社会復帰が早い特徴があります。ロボット手術は、「**患者さんの体に優しい低侵襲手術**」と言えます。

整形外科



診療部長
菊川 憲志
 Kenshi Kikukawa

- ◆専門分野
整形外科一般・肩関節外科
- ◆所属学会
日本整形外科学会(専門医・指導医・認定スポーツ医・認定リウマチ医・運動器リハビリテーション医)
西日本整形・災害外科学会
日本肩関節学会(代議員)
九州肩関節研究会(世話人)



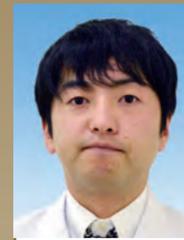
医 長
白石 大偉輔
 Daisuke Shiraiishi

- ◆専門分野
整形外科一般・関節外科
- ◆所属学会
日本整形外科学会(指導医・専門医・認定スポーツ医)
日本人工関節学会
日本足の外科学会
日本膝関節学会



医 長
福田 雅俊
 Masatoshi Fukuda

- ◆専門分野
整形外科一般・関節外科
- ◆所属学会
日本整形外科学会(指導医・専門医)
日本骨粗鬆症学会(認定医)
西日本整形・災害外科学会
日本人工関節学会



医 員
松原 秀太
 Shuta Matsubara

- ◆専門分野
整形外科一般
- ◆所属学会
日本整形外科学会(専門医)
日本リウマチ学会
日本手外科学会
日本骨折治療学会
西日本整形・災害外科学会



医 員
荒木 崇士
 Takashi Araki

- ◆専門分野
整形外科一般
- ◆所属学会
日本整形外科学会(専門医)
西日本整形・災害外科学会
日本肩関節学会
日本骨粗鬆症学会



医 員
後生川 輝
 Hikaru Goshogawa

- ◆専門分野
整形外科一般
- ◆所属学会
日本整形外科学会
日本肩関節学会
西日本整形・災害外科学会



医 員
生田 純基
 Junki Ikuta

- ◆専門分野
整形外科一般
- ◆所属学会
日本整形外科学会

整形外科は運動器(骨、関節、筋肉、腱、靭帯、末梢神経等)が原因で起こる痛みや機能障害を主な疾患対象としており、**関節外科**(肩、肘、手、股、膝、足など)、**脊椎外科**、**外傷**(骨折、脱臼など)、**スポーツ障害**、**運動器リハビリ**、**関節リウマチ**など幅広く扱っています。現在、当科は平成 29 年 4 月より **7 人体制**にて日常診療にあたっています。

外来は平日午前 3 診(火曜日のみ 2 診)で行っています。手術適応症例、診断・治療に難渋する症例、相談したい症例など御気軽に御紹介下さい。また逆紹介も積極的に行っており、開業医の先生方との連携を進めていきます。平素応援して下さい。八代・県南地区の先生方、またこのような環境を与えて頂いた熊本大学整形外科教室に深く感謝申し上げます。

2023 年度の手術症例数は 836 例でありました(図 1)。コロナ禍で手術数減少していましたが、昨年度は増加傾向がみられました。超高齢社会を反映してか、骨粗鬆症に起因する骨折、多発部位の同時骨折、変性疾患に対する手術症例の増加がみられます。各分野について詳述します。

外傷分野: 高齢者の骨粗鬆症に起因する骨折(大腿骨近位部骨折、橈骨遠位端骨折、上腕骨近位端骨折、脊椎圧迫骨折など)に加え、骨脆弱性骨折、インプラント周囲骨折、粉碎骨折が増加しています。様々な症例に対応すべく、知識・技術の習得、器械・器機を購入、開放骨折用の創外固定は 6 台常備しています。また骨髄炎症例に対しては、高濃度の抗生剤を局所に還流させる iMAP 法、iSAP 法を導入しています。

肩関節分野: 2019 年 7 月より、腱板断裂手術症例に対し鏡視下腱板修復術(ARCR)を施行しています(図 2)。この手術は肩主動筋である三角筋への侵襲が少なく早期の機能回復が図れる、術後疼痛が少ない、などのメリットがあります。また変形性肩関節症に対し解剖学的人工肩関節置換術、修復不能な肩腱板広範囲断裂・腱板断裂性肩関節症に対しリバース型人工肩関節置換術(図 3)を行っています。

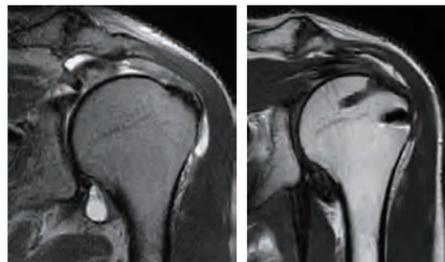
膝関節分野: 膝変性疾患に対する膝関節鏡視手術(半月板切除、半月板縫合)、人工膝関節置換術(図 4)、大腿骨・脛骨骨切り術すべて増加傾向にあります。またスポーツ障害として膝前十字靭帯再建術も行っています。他にも、膝蓋骨脱臼症例に対する内側膝蓋大腿靭帯再建術など、手術のバリエーションが毎年増えています。

変性疾患その他: 変形性股関節症に対する人工股関節置換術(図 5)が増えています。外反母趾に対する手術も行っています(図 6)。以上、各分野に関する情報は当院ホームページでも公開しております。時間のあるときに御一読ください。

学会活動も積極的に推奨しています。口演発表は地方学会 6 題・全国学会 3 題、論文発表は 4 題(1 題は国際誌)でした。講演に関して、学会で 1 講演(日本整形外科学会総会で招待講演)、地方・Web で 3 講演でした。後進育成のためにも臨床研究の推進は基幹病院の責務と考えています。積極的な院外への情報発信を心掛け、研究発表・論文作成に努めていきます。

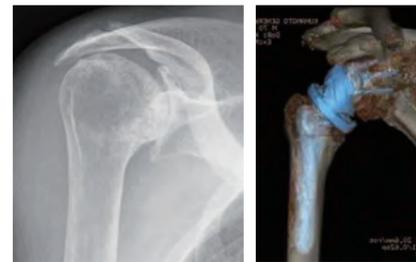
昨年度まで 7 年間在籍してくれた田村医師が自宅開業継承のため退職、また 1 年間活躍してくれた中瀬医師が荒尾市民病院に転勤となりました。また、7 月には松原医師が同じく自宅開業継承のため退職予定です。3 名にはときに最前線で、ときに土台となって支えてもらい感謝しかありません。また 2024 年度は荒尾市民病院から後生川医師、熊本赤十字病院より生田医師を迎え、新たな体制となります。心機一転、**地域医療に貢献すべく日々の診療に従事**してまいります。今後ともよろしく御願い申し上げます。

図 1



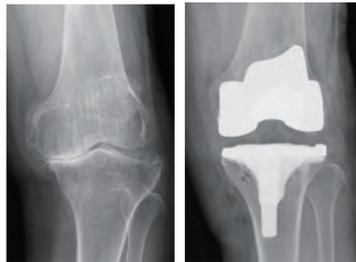
左(術前): 矢印は断裂した腱板断端
 右(術後 MRI): アンカーにて腱板修復

図 2



左(術前単純レントゲン) 右(術後 3D-CT)

図 3



左(術前) 右(術後)

図 4



左(術前) 右(術後)

図 5



左(術前) 中(術直後) 右(最終経過観察時)

産科



診療部長

たなか ひろあき
田中 博明
Hiroaki Tanaka

- ◆専門分野
周産期・産婦人科一般
- ◆所属学会
日本産科婦人科学会(専門医・指導医)
日本周産期・新生児医学会(母体胎児専門医)
日本母体胎児医学会
日本産科腫瘍学会
日本産婦人科内視鏡学会



医 長

たなか かよ
田中 佳世
Kayo Tanaka

- ◆専門分野
周産期・女性ヘルスケア
- ◆所属学会
日本産科婦人科学会(専門医・指導医)
日本周産期・新生児医学会(母体胎児専門医)
日本母体胎児医学会
日本女性医学学会
日本母性内科学会



医 員

さかた じゅん
坂田 準
Jun Sakata

- ◆専門分野
産婦人科
- ◆所属学会
日本産科婦人科学会

2024年2月より5人体制で診療しております。産科外来は、月～金曜日のいつでも対応しております。予約がない場合は、事前にお電話いただくと大変助かります。産科病棟は11階にあります。病床数は5床(すべて個室)です。病床は機能性と快適性を備えた女性に優しい病床空間を提供しています。

- 初診について
月経が来しない、妊娠検査薬が陽性であったなど、妊娠の可能性が疑われる場合は、お電話で予約いただき、受診をしてください。
- 里帰り分娩
妊娠 34 週頃に受診していただくと助かります。それまでに受診の必要はありません。里帰りするタイミングがきまりましたら、事前にお電話で予約いただき、受診をしてください。

【診療内容】

- 合併症妊娠
様々な基礎疾患を有している方も、当院の他診療科と共同で診療いたしております。
- 産科合併症
妊娠中は、様々な妊娠に関する合併症(妊娠糖尿病、妊娠高血圧症候群など)を発症することがありますが、大学病院などと連携し診療しております。
- 無痛分娩
希望による無痛分娩に対応しておりますが、計画的な分娩でお願いしております。
- 胎児スクリーニング
妊娠 20 週前後、28 週前後に、専門医師が胎児の異常の有無について検査しております。
- 出生前診断
当院で実施できるように準備を進めておりますので、ご相談ください。



産科個室



LDR



外来モニター室

婦人科



病院長補佐兼部長

とや としみつ
東矢 俊光
Toshimitsu Toya

- ◆専門分野
産婦人科腫瘍・性器脱・女性ヘルスケア
- ◆所属学会
日本産科婦人科学会(専門医・指導医)
日本婦人科腫瘍学会(専門医・指導医)
日本がん治療認定医機構(認定医)
日本がん治療学会会員
緩和ケア研修会修了
日本産婦人科医会(指定医師)
新生児蘇生法専門コース修了



医 員

よし づみ たかこ
吉積 貴子
Takako Yoshidomi

- ◆専門分野
産婦人科
- ◆所属学会
日本産科婦人科学会(専門医)
日本婦人科腫瘍学会
日本産科婦人科内視鏡学会
新生児蘇生法専門コース修了
緩和ケア研修会修了



非常勤医師

ふくだ あさこ
福田 亜紗子
Asako Fukuda

毎週(火曜)外来担当



非常勤医師

くす のき まき
楠木 槇
Maki Kusunoki

毎週(金曜)外来担当

<スタッフの紹介>

当院産科婦人科は令和6年2月1日から常勤医5人体制になりました。坂田準先生、吉積貴子先生、田中佳世先生、田中博明先生と東矢俊光の5名となりました。また非常勤で毎金曜日に楠木槇先生で日常診療を行っています。女性医師希望の患者さんも多く、月曜日から金曜日まで女性医師が外来担当に当たっています。坂田準先生、吉積貴子先生は産婦人科疾患全般を担当しています。田中佳世先生、田中博明先生は熊本県内でも少ない産科専門医の資格を持っておられます。また婦人科手術も多数の経験をお持ちです。東矢俊光は主に婦人科腫瘍や性器脱などを専門にしており婦人科癌の早期発見、早期治療を目指しております。近隣の産婦人科医はもちろん内科や外科の諸先生との連携を密にして、八代地区の地域医療に貢献できればと考えております。

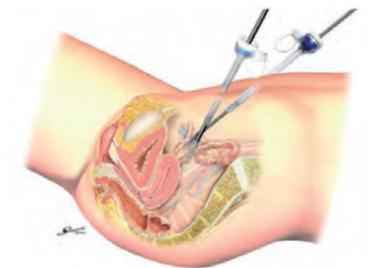
<診療の紹介>

婦人科は女性の一生にかかわる診療科です。思春期から若年女性における月経異常や月経困難症。成熟期女性に多い子宮筋腫・子宮内膜症・卵巣腫瘍などの良性疾患。更年期・老年期女性での更年期障害や骨盤臓器脱などの良性疾患。あらゆる年代での婦人科悪性腫瘍など。婦人科だけではなく内科・外科・泌尿器科などの協力も得ながら診療しています。

外来診療は月曜日から金曜日の午前中に行っています。手術は子宮筋腫、子宮癌、子宮脱、卵巣腫瘍などに対して開腹手術はもちろん腹腔鏡下手術や腔式手術も行っております。当科で行っている診療内容のいくつかについてご紹介します。

婦人科領域

1. 腹腔鏡下手術：やはり開腹手術に比べて傷も小さく、術後の回復も早いです。当科では子宮筋腫や良性卵巣腫瘍、異所性妊娠など日常的に行っております。
2. ロボット支援下手術：2021年10月より婦人科でもロボット手術を実施しています。すでに30数例の方を手術しています。熊本県内では、婦人科ロボット手術は3施設しかありません。現在、粘膜下筋腫や子宮頸部異形成上皮などにロボット支援下子宮全摘出手術を行っています。今後、適応疾患を広げていく予定です。
3. 腔式手術：子宮脱などに対して腔式手術を標準的に行ってまいります。また子宮筋腫に対して腹腔鏡補助下腔式子宮全摘術(LAVH)を行っております。もちろん大きな筋腫などは腹式手術を行っております。
4. 子宮鏡下手術：子宮内膜ポリープや粘膜下筋腫に対して経腔的に子宮鏡下手術を行っております。
5. 婦人科悪性腫瘍に関しては手術や放射線治療・抗がん剤治療も行っております。



腹腔鏡下手術



ロボット手術

当院の理念は「患者さまに満足される最新の医療を情熱をもって実践する」であります。女性の一生に寄り添い、優しく確かな医療を行いたいと考えております。

眼科



部長
うえむら たけし
上村 剛史
Takeshi Uemura

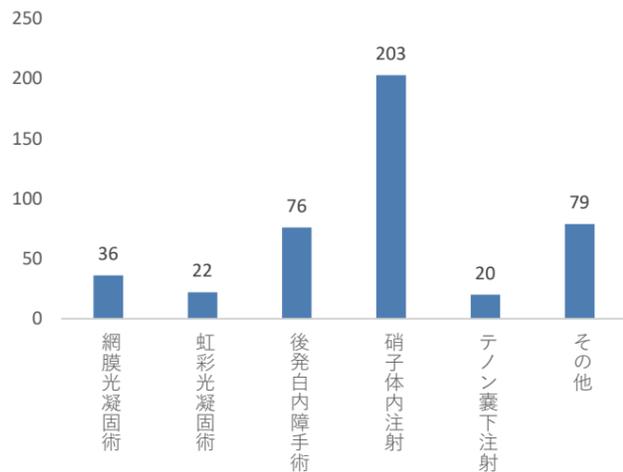
- ◆専門分野
白内障・網膜
- ◆所属学会
日本眼科学会
日本眼科医会

眼科では熊本大学病院から**常勤医師1名**が赴任し、日常診療を行っております。外来は、一般眼科診療とともに、必要に応じて当院各診療科、熊本大学病院等と連携を取りながら診療を進めて参ります。

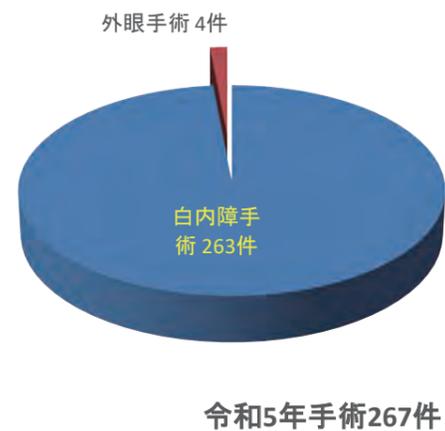
手術は主に**白内障手術、翼状片などの外眼手術**を行っております。**局所麻酔症例**が大半を占めますが、当院では認知症などのため術中の安静が困難な症例に対して全身麻酔での手術も行っております。また、外来においても加齢黄斑変性症・糖尿病網膜症・網膜静脈閉塞症などの症例に対し、硝子体注射や網膜光凝固術などの外来治療も積極的に行っております。

日々の診療では患者さまの **Quality of vision** を維持すべく、診療に従事して参ります。

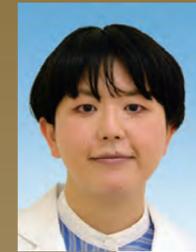
令和5年外来処置件数



令和5年 手術件数



皮膚科



部長
いちむら ちか
市村 知佳
Chika Ichimura

- ◆専門分野
皮膚科
- ◆所属学会
日本皮膚科学会(専門医)
日本アレルギー学会



医員
おおしお ゆうだい
大潮 雄大
Yudai Oshio

- ◆専門分野
皮膚科
- ◆所属学会
日本皮膚科学会

皮膚科では皮膚及び皮膚の附属器(頭髪、爪など)を取り扱っています。**足白癬(みずむし)、湿疹、アトピー性皮膚炎、痤瘡(にきび)、蕁麻疹(じんましん)、皮膚腫瘍(おでき)、帯状疱疹、蜂窩織炎(ほうかしきえん)**といった身近な疾患から、**乾癬、膠原病**など他科領域に関連する疾患や、高齢化社会になり**増加傾向にある褥瘡**に至るまで、幅広く取り扱っています。

エキシマライト(局所型中波紫外線照射機)および広範囲に照射できる中波紫外線照射機が導入されています。これらは**NBUVB(ナローバンド紫外線)**を広範囲な照射範囲から、細かい照射まで症状・分布に応じて照射することが可能です。乾癬(特に爪乾癬)、掌蹠膿疱症、尋常性白斑(しろなまず)、アトピー性皮膚炎等に照射可能で、塗り薬や飲み薬などで改善が乏しい場合でも有効例が多くみられます。

そのほか**ダーモスコピーによる診断**や**液体窒素を用いた冷凍凝固療法**による脂漏性角化症(老人性いぼ)、尋常性疣贅(ウイルス性いぼ)などの治療、皮膚腫瘍の切除などを行っております。

また、**日本皮膚科学会の生物学的製剤承認施設**ですので、乾癬(尋常性乾癬、膿疱性乾癬、関節症性乾癬、乾癬性紅皮症)、化膿性汗腺炎、アトピー性皮膚炎、円形脱毛症に対する生物学的製剤の導入・維持使用が可能になっています。

皮膚科では**伝統的な治療から最新の治療**までをそれぞれの疾患・状態に応じて、御提案させていただきます。と思っておりますので、よろしくお願いいたします。



NBUVB



エキシマライト

画像診断センター・放射線科



画像診断治療センター長
放射線科部長
なかそね ゆたか
中曽根 豊
Yutaka Nakasone

- ◆専門分野
IVR・画像診断一般
- ◆所属学会
日本医学放射線学会(放射線診断専門医)
日本IVR学会(専門医)
日本肝臓研究会



医 長
すえおか たかひろ
末岡 敬浩
Takahiro Sueoka

- ◆専門分野
画像診断一般
- ◆所属学会
日本医学放射線学会(放射線診断専門医)
日本IVR学会



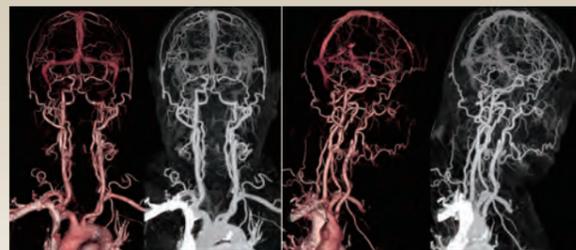
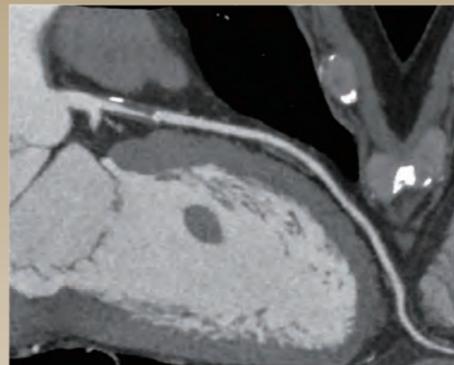
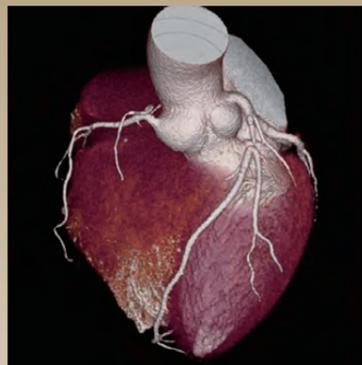
医 員
さとう かなこ
佐藤 加奈子
Kanako Sato

- ◆専門分野
放射線科
- ◆所属学会
日本医学放射線学会
マンモグラフィー読影認定医

ここ数年、PHILIPS社製の1.5テスラMRI装置 Prodiva、GE社製SPECT装置 Discovery670DR、Canon社製CT装置 Aquilion ONE/PRISM Editionと、CT、RI、MRIの各モダリティについて、flagshipモデルの導入を、順次、推進してまいりました。これにより、幅広い分野において、一歩先を行く、質の高い診断画像を先生方の下にお届けすることが出来るようになりました。

コロナ禍、宇露戦争による余波で、遅れに遅れておりました3T MRIの更新についても、いよいよ5月より工事が開始されます。3T、1.5T装置、いずれにも最新のAIアルゴリズムを実装し、更に高精細な画像を提供可能となります。是非、御期待を頂ければと思います。

皆さんにご利用いただく地域の中央診療部門一同、益々の垣根の低さと迅速性をモットーに、診療を行って参る所存です。診断や治療についてお困りのことがありましたら、お気軽にご相談ください。



画像診断センター・放射線科では、地域の先生方からのご依頼により、画像検査のみを必要とする患者様をご紹介いただき、検査、診断、報告書作成を行っております。

予約方法

お電話もしくはFAXにてお申し込みください。
TEL・FAX：0965-88-9020

◆CT検査



造影検査予約では、腎機能への配慮をお願いします。
来院時間は、検査予約時間の15分前です。

◆MRI検査



造影検査予約では、腎機能への配慮をお願いします。
来院時間は、検査予約時間の30分前です。
体内埋め込み金属によっては、検査不可、専門医の診察が必要となるため、確認をお願いします。
広範囲の撮像はできません。詳細な検査部位をお聞きする場合があります。

◆核医学検査(RI)



来院時間は検査予約時間の30分前です。
検査部位によって検査時間や待ち時間、食事制限が異なります。

◆骨密度測定

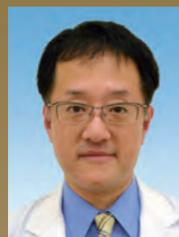


来院時間は検査予約時間の15分前です。

検査終了後

画像データと読影報告書を作成し、当院よりお持ちいたします。
紹介元の先生方からの説明をお願いします。

放射線治療センター・放射線治療科



放射線治療センター長
放射線治療科部長

ふるさわ みつひろ
古澤 光浩
Mitsuhiko Furusawa

- ◆専門分野
放射線治療全般
- ◆所属学会
日本医学放射線学会
(放射線治療専門医・研修指導医)
日本放射線腫瘍学会(専門医)
日本がん治療認定医機構(認定医・教育医)
緩和ケア研修会修了
日本癌治療学会
熊本大学医学部臨床教授

放射線治療は大きく、治癒を目的とした根治照射から術前・術後照射、予防照射、症状緩和や延命を目的とした緩和照射に分けられます。当院ではどの目的の治療にも対応しますが、疾患としては現在主に**悪性リンパ腫、乳がん、食道がん、肺がん、婦人科がん、骨転移**などの治療を行っています。放射線治療はCTをベースにして計画を行い、毎回照射前に位置を確認する**IGRT (Image-Guided Radiotherapy)** というシステムを導入しているため、より高い精度での照射が可能です。また、泌尿器系の疾患では必要に応じてエコーで毎回尿量測定を行い、より再現性の高い治療を目指しています。

当院は熊本県内、**熊本市以南で唯一、放射線治療専門医が常勤の病院**です。生活の質の向上も重視しており、疾患によっては外来通院での治療も行っております。**放射線治療医、臨床放射線技師、物理士、看護師がチームを組んで診療**にあたらせていただきます。



放射線治療機 CLINAC iX(バリアン)



IGRT を用いた位置合わせ



尿量測定用エコー

病理診断科・臨床検査科



病理診断科部長

い やま けん いち
猪山 賢一
Kenichi Iyama

- ◆専門分野
病理診断(全臓器を対象)
細胞診断(全臓器を対象)
- ◆所属学会
日本病理学会(指導医・専門医)
日本臨床細胞学会(指導医・専門医)



病理診断科副部長

おお その かず たか
大園 一隆
Kazutaka Ozono

- ◆専門分野
病理診断(全臓器を対象)
細胞診断(全臓器を対象)
- ◆所属学会
日本病理学会(専門医)
日本臨床細胞学会(専門医)



臨床検査部長

きた もと やす のり
北本 康則
Yasunori Kitamoto

- ◆専門分野
内科・臨床検査・腎臓内科
血栓止血
- ◆所属学会
日本内科学会(認定医)
日本臨床検査医学会(専門医)
日本腎臓学会(専門医)
日本血栓止血学会
国際血栓止血学会

◆病理診断科◆

がん診療拠点病院では病理診断科の設置と常勤病理専門医による病理診断が病院の医療の質の向上とその維持に不可欠です。**病理専門医2名、細胞検査士と臨床検査技師7名体制**で身体の内臓器の腫瘍性病変、炎症性病変、代謝性病変などを対象に病理標本作製とその病理診断を実施しています。

(業務体制):

- 1) **組織標本作製と病理診断(全臓器を対象)**: (令和5年: 2,698 症例)
- 2) **細胞標本作製と細胞診断(全臓器を対象)**: (令和5年: 2,089 症例)
- 3) **術中迅速標本作製と術中迅速病理組織診断(切除断端やリンパ節転移の有無: 56 症例)**、**術中腹水・胸水中の細胞診断(82 症例)**: (令和5年: 計138 症例)病理診断室と各手術室を画像モニターで連結し、リアルタイムで病理専門医と手術執刀医とが直接対話しながら、切除範囲や手術方針の決定を行っています。
- 4) **免疫染色や遺伝子解析による病理診断**: 精度の高い確定診断や治療方針決定を可能とし、分子標的治療の適応を含めた各種がん治療においても病理診断科が大きく関与しています。
- 5) **病理専門医も患者さまの臨床診断への関与**: 患者様の治療方針の総合討議に参加し、本院の医療の質を担保しています。
- 6) **遠隔病理診断**: JCHO 病院の使命の一つである地域医療支援の病理診断科として、病理専門医不在公的医療機関との遠隔病理診断にもセキュリティの高い光ファイバーネットワーク回線を利用し積極的にサポートしています。(令和5年: 23 症例)
- 7) **病理解剖**: 最新の治療でも奏功せずに、不幸にもお亡くなりになられた患者さまの病態の解明とより良き医療をさらに進歩させていくためには詳細な病理解剖の検討が不可欠であります。(令和5年: 3 症例)

◆臨床検査科◆

健診センター(本島寛之部長)との共同で JCHO 調査研究「**新規マーカー尿トロンピンによる糖尿病性腎症進行の予知: 新たな末期腎不全予防戦略**」を進めている。症例の長期間追跡により、尿トロンピンが糖尿病性腎症の初期マーカーになる事を示したい。

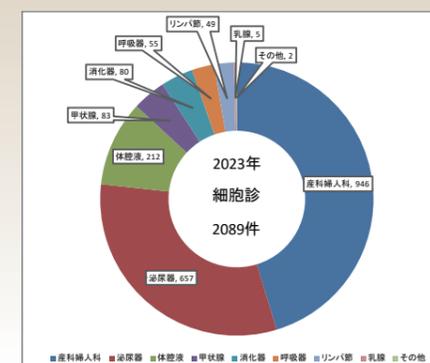
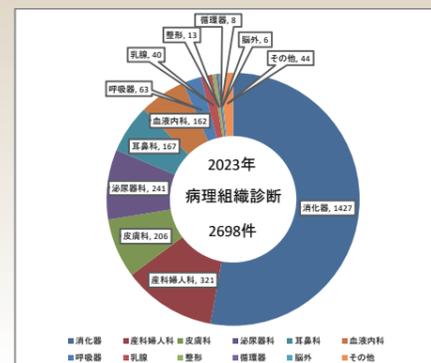
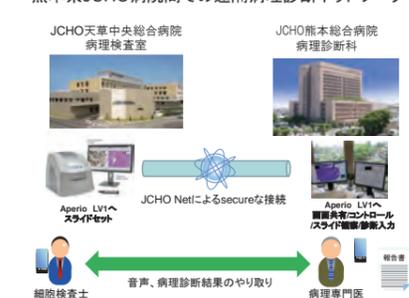
熊本県南~天草地域の臨床の諸先生方とは常に緊密な連携を保ちながら、**質の高い最新の医療情報を提供**して参ります。ご支援の程よろしくお願ひ申し上げます。



病理診断科では術中迅速診断では病理診断室から各手術室および手術視野の確認と良悪性のマイクロ画像を配信し、病理医と術者との直接会話を実施している。



熊本県JCHO病院間での遠隔病理診断ネットワーク



麻酔科



部長
たに もと ひろ なり
谷本 宏成
Hironari Tanimoto

- ◆専門分野
臨床麻酔一般
- ◆所属学会
日本麻酔科学会(指導医・代議員)
日本集中治療医学会
日本心臓血管麻酔学会



医 長
ひ ぐ ち た く し
樋口 拓志
Takushi Higuchi

- ◆専門分野
臨床麻酔一般
- ◆所属学会
日本麻酔科学会(指導医)



医 長
まつ かわ ひ で か ず
松川 豪策
Hidekazu Matsukawa

- ◆専門分野
臨床麻酔一般
- ◆所属学会
日本麻酔科学会
(指導医・機構専門医)
日本心臓血管麻酔学会(専門医)



医 長
の だ ゆ か り
野田 縁
Yukari Noda

- ◆専門分野
麻酔管理全般
- ◆所属学会
日本麻酔科学会(専門医)

非常勤医師

さか なし ゆう じ
坂梨 祐司
Yuji Sakanaishi

非常勤医師

た て ベ み つ り
建部 光里
Mitsuri Tatebe

非常勤医師

たいら やす あき
平 泰昭
Yasuaki Taira

非常勤医師

ほりべ たつ や
堀部 達哉
Tatsuya Horibe
第2・4(水曜)担当

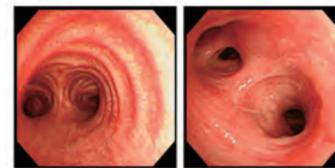
内視鏡センター



内視鏡センター長
副院長
よし まつ しん い ち
吉松 眞一
Shinichi Yoshimatsu

呼吸器領域検査

気管支鏡にて気管支の観察及び「生検」・「細胞診」を行っております。必要に応じて X線透視下に行くと共に病変部の気管支を選んで造影剤を注入した気管支造影による診断も行っております。

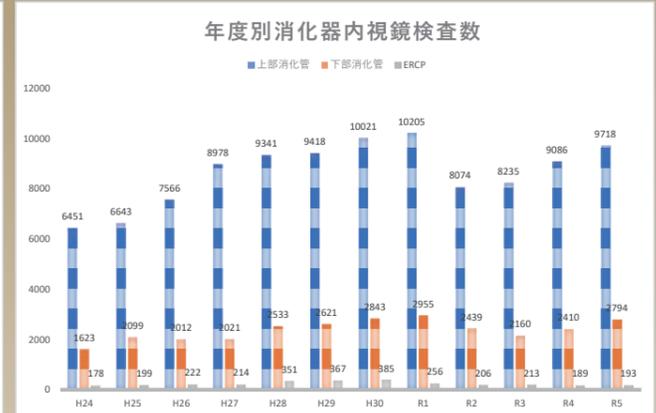
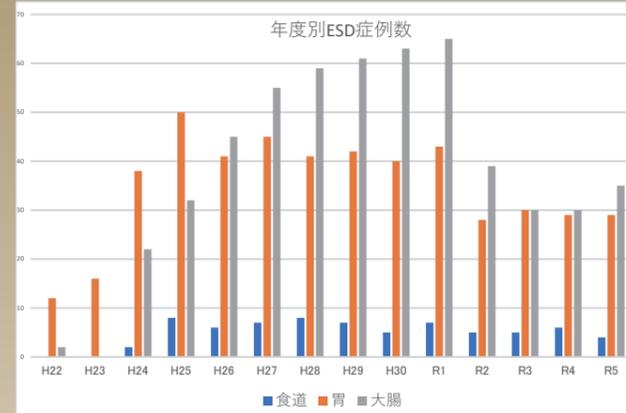


気管支内視鏡画像

当センターは日本消化器内視鏡学会指導医2名、専門医1名を含む、消化器内科常勤医8名(1名産休)、外科常勤医5名、非常勤医3名が検査に当たり、月曜から金曜まで内視鏡検査を行っています。癌検診のスクリーニング検査から早期癌や胆道疾患の内視鏡治療まで行い、症例数も年々増加しています。

また消化管出血や総胆管結石などの腹部救急疾患にも迅速に対応し、24時間態勢で緊急内視鏡検査・治療を行います。平成26年度導入の内視鏡システム「EVIS EXERA III」に変えて、次世代内視鏡システム「EVIS X1」5台を導入。内視鏡検査件数の増加および診断能の向上に努めます。胆膵領域に対しては、平成28年度より X線診断装置(Cアーム搭載多目的デジタル X線 TVシステム「Ultimax-i」(東芝メディカル)を導入し、内視鏡的膵胆管造影検査(ERCP)を行なっています。総胆管結石、急性胆管炎に対して、内視鏡的胆道ドレナージ術(EBD)、内視鏡的採石術を積極的に行います。さらに、胆道癌の術前検査には超音波内視鏡検査(EUS)、超音波内視鏡下吸引生検法(EUS-FNA)、管腔内超音波検査(IDUS)を行なっています。

平成31年3月25日に小腸カプセル内視鏡システム(PillCam™ SB3カプセル内視鏡システム: Medtronic)を導入し、小腸検査にも積極的に取り組んでいます。



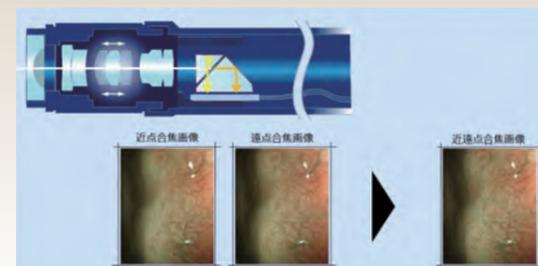
X線透視装置



超音波内視鏡下吸引組織診 (EUS-FNA)



内視鏡システム「EVIS X1」



EDOF (被写界深度拡大技術)

麻酔科は常勤医師4名、非常勤医師4名で構成され、様々な手術麻酔に対応しています。麻酔法には全身麻酔、静脈麻酔、硬膜外麻酔、脊髄も膜下麻酔、伝達麻酔などがあります。手術前に麻酔科医が診察を行い、手術と患者さまの全身状態に最も適している麻酔法・使用薬剤を選択し、安全第一をモットーに管理しています。患者さまとの対話も重視しており、麻酔や手術に対する漠然とした不安や恐れを取り除けるようプロ意識を持って説明しています。

麻酔中は生体情報モニターという機器を用いて患者様の安全を常に監視しています。当院の機器には代謝モニターという機能が組み込まれており、患者様のエネルギー消費量を測定することができます。全手術室にこの機能を有しているのは日本でも当院のみです。エネルギー消費量をモニターすることで、より繊細な麻酔管理が可能となります。

手術終了直後は、麻酔薬が多少残存しているため、痛みを感じることは少なく、病棟に戻ったところに痛みが襲ってきます。その痛みは手術当日が最も強く、その後次第に軽減します。快適な術後経過を過ごすには、術直後からの強力な鎮痛処置が重要です。しかし、リスクの高い症例では、呼吸抑制や意識障害の不安から、十分な鎮痛薬の投与が難しいとされてきました。

エコーガイド下末梢神経ブロックは、呼吸や意識に影響を与えることなく12-24時間程度の鎮痛を行うことが可能です。当院ではかなり早い段階からこの方法を導入し、ハイリスク症例においても安全に術後早期の痛みをとることができます。

施行実績としては15年以上で10000件を優に超えます。それを可能にしたのはすぐに使えるエコー装置の存在です。当院手術センターでは4台の最新エコー装置が常時出番を待っています。

術後の患者さまの苦痛は手術の傷の痛みだけではありません。男性にかがらず女性においても導尿カテーテルによる尿道痛や不快感は大変つらいものがあります。我々は尿道に痛み止めを投与できる新しい導尿カテーテルを導入し、尿道不快感を劇的に緩和させることに成功しました。

増築により手術室が2つ増え、合計8室となりました。中でも、ハイブリッド手術室に転用可能な7号室は熊本一広い手術室です。ロボット手術や心臓外科手術など多くの器材を使用する場合においても、その広さは圧倒的です。

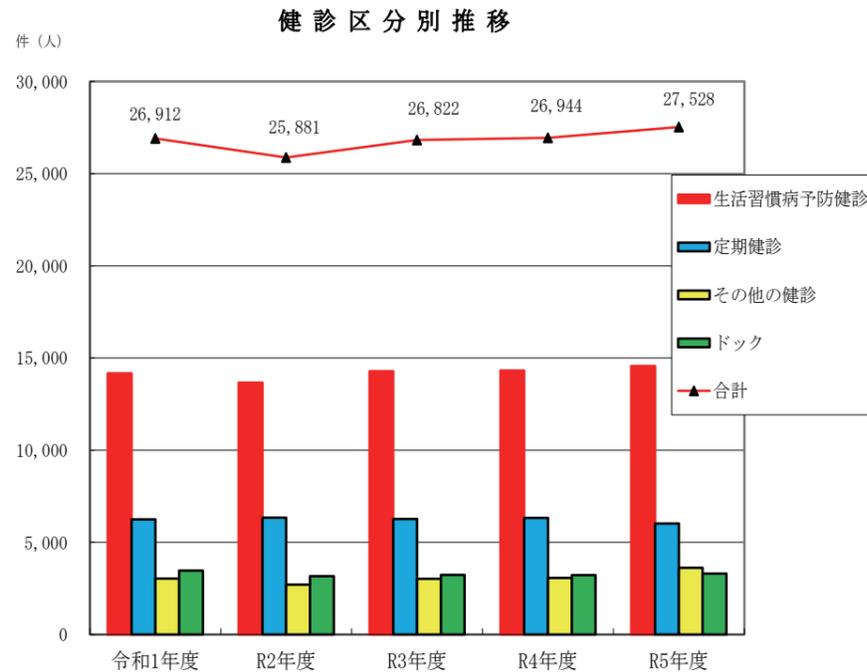
我々は最新の知見・技術を取り入れることはもちろん、常に患者様に寄り添い、快適な術後経過を送れるよう努力して参ります。よろしくお願いいたします。



健康管理センター



センター長
もとしま ひろゆき
本島 寛之
Hiroyuki Motoshima



当院の健康管理センターは県南有数の健康管理施設であり、**年間2万人を超える受診者**の皆様を受け入れており、主な業務は院内での健診と院外での巡回健診となります。

院内健診は、新たに増築された病院北館 2 階にて実施しており、毎日多くの受診者の皆様を受診されます。人間ドックには一泊二日コース、日帰りコース、脳ドック、肺がんドック、女性ドックを準備しており、新たに**近隣施設にはない心臓ドックを開設**しました。また、企業が実施する多種類の生活習慣病予防健診・法定健診、地域自治体が実施する健康診断（特定健診・乳がん検診・子宮がん検診など）を担当、その他にも船員健診や被爆者健診など、多種多様な健診を担当しています。

院外での巡回健診は、県内の多くの企業と地域自治体に活用いただいています。2台の健診バス（レントゲン車と心電図等を搭載した補助車）を用いて、北は福岡・大分県境から、南は鹿児島県境まで、過疎地域も含め、年間 200 日以上、医師・看護師・放射線技師・検査技師などのスタッフを送り込んで、地域の方が遠隔地の当院まで足を運ばれることなく、ご自宅近くで健診を受診できるよう対応しております。院内健診がいかにも多忙でも、多くの健診機関が対応に苦慮する過疎地域における健診を担当しております。これは地域の皆様の強いニーズに応えるということであり、本院が所属する**地域医療機能推進機構（JCHO）の設立理念に沿った事業**でもあるのです。

健康管理センターの当面の目標は、「健診は、熊本市内まで足を伸ばす必要はなく、医師会の先生方と熊本総合病院が共に担うことで、**八代地区内で完結できる体制**になっている」ことを、地域の皆様にご理解いただくことです。信頼に足る実績も蓄積されてきております（図1参照）。**脳ドック・乳がん健診・企業向けのメンタルヘルスチェック検診**も多くの皆様に活用いただいております。本年度も、八代市郡の医師会の先生方に御指導と御協力をいただきながら、地域住民の皆様の健康の保持と増進、疾病の早期発見と早期治療のお手伝いができますよう、センター職員全員が頑張っていきます。また、**2023年3月新健診センターに移築**しました際、**最新式の検査機器も多数導入**致しましたので、**診断の更なる向上**につながるものと信じております。何卒よろしく御願ひ申し上げます。

人間ドックコース

人間ドック（日帰りコース）

1日で全身をくまなくチェックする基本的なコース
「がん」「高血圧」「心臓病」などの生活習慣病全般に関するチェックを行います。基本的な項目を日帰りで検査したい方におすすめです。

主な検査項目

- 内科診察
- 身体計測（視力、聴力、腹囲等）
- 血液検査
- 検尿・検便
- 心電図
- 胸部X線
- 腹部超音波
- 肺機能
- 胃透視・胃カメラ

※胃透視を胃カメラに変更する場合は +6,050円の差額が発生します。

人間ドック（1泊2日基本コース）

ゆとりあるスケジュールで全身をチェックするコース
日帰りコースに比べて、腫瘍マーカーや糖尿病関連の詳しい検査ができます。

主な検査項目

- 日帰りコースの検査項目
- +
- 負荷心電図
- 甲状腺検査
- 糖負荷試験
- 腫瘍マーカー（CA19-9, AFP, CEA）
- 胃透視・胃カメラ

※胃透視を胃カメラに変更する場合は +6,050円の差額が発生します。

人間ドック（1泊2日基本コース全消化器検査コース）

消化器の検査を中心としたコース

主に消化器の検査（全大腸カメラ+胃カメラ）を目的としているコースです。

主な検査項目

- 日帰りコースの検査項目
- +
- 負荷心電図
- 甲状腺検査
- 糖負荷試験
- 腫瘍マーカー（CA19-9, AFP, CEA）
- 全大腸カメラ + 胃カメラ

心臓ドック

心臓の異常を早期に発見するためのドック

心臓の働きや心筋梗塞、狭心症などが心配な方におすすめです。

検査	内容	心臓CT	心エコー	ABI	心電図	BNP	採血
心不全	心臓の働きを詳しく検査します		○			○	
狭心症	狭心症や心筋梗塞などを検査します	○	○	○	○	○	
心臓専門	心臓全体を検査します	○	○	○	○	○	○

■ がんセンター

日本におけるがん患者数は年々増加しており、**死亡原因の第一位**となっております。今や国民が生涯のうちがんに罹患する確率は2人に1人となっており、3人に1人ががんで死亡する時代を迎えました。従って、八代地域においても、がんの診断と治療の拠点が必要であり、もって、がん診療の質を向上し、**地域住民に満足されるがん診療を実施**することを目的としております。

当センターでは、**すべてのがんに関する先進的かつ高度ながん診断・治療部門の総合的戦略を駆使し、がん患者の集学的治療**を行っています。

【がんセンター長 堀野 敬】 チーム医療を実践しています。

がん薬物療法部(外来・入院) 部長 江藤 健一郎	・ 外来薬物療法室 では各診療科の医師の指示のもと薬剤師と看護師が連携し安全かつ有効な治療を実施しています。
放射線治療部 部長 古澤 光浩	・ 治療を目的とした根治照射 、術前・術後照射、予防照射、症状緩和や延命を目的とした緩和照射を実施しています。患者の生活の質の向上を重視し、外来通院での治療も可能です。
緩和ケア部 部長 堀野 敬	・医師、看護師、薬剤師、管理栄養士等多職種によるチーム回診を実施し、入院患者様の 痛みなどのつらい症状緩和 に努めています。
がんリハビリテーション(入院) 担当 池島 聡	・ 周術期から終末期まで 、がんに伴う様々な症状に対して病期に応じてリハビリテーションを行います。がんリハ専門の医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の チームにより各種サポート を行います。
看護相談外来(がん看護) 担当 宮原 希	・治療の副作用のこと、今後の治療の方向性のこと、療養生活に関連した迷いや悩みについて 認定看護師が相談に応じます 。各科外来受付にご相談下さい。

◆がんに関するセカンドオピニオン外来：米国癌学会アクティブメンバーである病院長 島田信也が担当いたします。

◆緩和ケア外来：外科診療部長 堀野 敬が担当いたします。

◆がん相談支援センター：患者・家族の皆様及び医療機関の相談窓口です。がん専門相談員が対応いたします。
※予約制となっておりますので下記にお問い合わせください。

お問い合わせ先：がん相談支援センター（1F 地域医療連携室内） TEL 0965-32-7111(代表)

■ 集中治療センター・救命救急部

当院の集中治療センターは**重症症例、高侵襲手術後の症例など集中治療を必要とする患者様が入室**され、その数は年間約450名になります。手術室と同フロアの4階に位置し、エレベーターからの導線もよく、術後の入室や救急外来からの入室もスムーズです。ベッド数は6床、**24時間365日対応**しており、看護師、薬剤師、臨床工学士、リハビリスタッフなどが連携して日々のケアにあたっています。

心臓疾患、脳卒中、外傷などの緊急受け入れに加え、消化器外科、心臓血管外科、脳神経外科等の高侵襲を伴う手術後の患者様の受け入れを主に行っています。この他にも集中治療を必要とする疾患はすべて入室対象となりますので、病態の理解や、周術期管理など、多職種と協働して日々研鑽に努めています。また、**機械的治療についても広く対応**しており、人工呼吸器をはじめ透析装置、大動脈バルーンポンピング(IABP)、新型コロナウイルス感染重症症例の治療として有名になった体外式膜型人工肺(ECMO)も対応が可能です。

2023年度の大規模改修では、新型コロナウイルス感染症対応の経験を生かし、**導線やゾーニングなどを考慮した重症感染症患者専用の病室をセンター内に新設**しました。

当院は「診療を希望する患者、救急搬送患者及び他の医療機関からの紹介患者について、可及的に受け入れ、**誠意をもって対応**する」という方針に基づき**二次救急病院としての機能・役割を果た**しています。超高齢化社会を迎え、救急車の台数・救急受診患者は増加しています。人員配置を整え、24時間重症患者が受け入れることができるよう準備しています。

重症症例の対応として、**高エネルギー外傷**においては各診療科の垣根を超え、チーム医療で重症患者の対応にあたっています。脳梗塞・脳出血の対応を24時間対応とし、**t-PA療法・血栓回収療法**共に昨年を上回る実施数となっております。血栓回収療法に関しては、**t-PA製剤投与後に当院へ搬送いただき血栓回収を実施**する症例が多くなっています。腎臓内科においては緊急透析を24時間対応、血液内科に関しても24時間対応しており、**県南特殊症例救急の岩**として診療にあたっています。**令和5年度は重症者発熱外来の役割も担い、県南の新型コロナウイルス感染患者対応、施設陽性者の診療から入院受け入れ等24時間体制で対応**しました。

救命救急部は**軽症患者から重症患者まで24時間体制で医師を中心としたスタッフ配置**を行い、**チーム医療**で診療にあたっています。

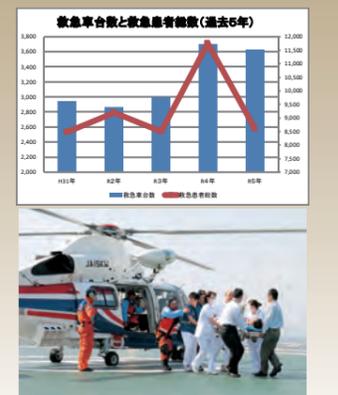


センター内

合同カンファレンス



県防災ヘリ「ひばり」が着陸



救命救急ヘリポート

■ 臨床研修医

研修医 **高橋 啓太** Keita Takahashi

2年間を終えてまず浮かぶ思いは、熊本総合病院で初期研修をして本当に良かったということです。研修が始まった頃は、カルテの使い方・指示の出し方・処方の仕方等々、毎日がわからないことだらけで、患者さんに向き合う以前の状態でした。各診療科を1-2ヶ月単位で回っていく中で、指導医・上級医の先生、コメディカルスタッフの方々に丁寧な御指導・御支援頂き、日々成長することが出来ました。

患者さんの病状を把握するにあたって、検査データは重要な指標ですが、毎日患者さんのベッドサイドにいき、表情や話を伺うことの重要性をこの2年間で学びました。患者さん1人1人、異なった人生観・社会的背景があり、さらに家族の思いも様々です。その中で最良の医療を選択し、それぞれの退院目標に向かって治療を進めるには、患者さん・その家族との信頼関係がなくては成立しません。病気を診るではなく、患者を診るとは日々のコミュニケーションを根幹として、それぞれの思いに寄り添うことが大切であり、完治や最善の医療だけが患者さんにとっての最高の医療とは限らないということも、研修医として動くようになって、より深く理解することができたと感じています。

この初期研修で感じたこと・経験したことを糧として、初心を忘れず、日々精進していきたいと思っております。2年間本当にありがとうございました！！

研修医 **畑中 利暉** Toshiki Hatana

初期研修医として2年間を終え、教科書では学べない多くのことを実臨床で学ぶことができたと感じています。臨床現場では、症例ごとに異なる患者の状況や背景、そして人間性に触れることができました。これらの経験は、医学の本質や患者中心の医療を理解する上で極めて重要であり、文字通り教科書では得られない貴重な知識となりました。

また、臨床現場では現実の医療状況に直面し、臨機応変に対応する能力や判断力を養うことができました。症例の複雑さや患者の要望に応えるために、臨床的思考やチームでの連携が不可欠であることを実感しました。

さらに、患者とのコミュニケーションや人間関係の築き方も、研修医として働いてみることで初めて経験できるような実践的な経験でした。患者やその家族との信頼関係を構築し、彼らの心身の健康をサポートすることの重要性を学びました。2年間の研修期間での実臨床の経験を通じて、医療の真の意味や価値を理解することができました。これからも、この貴重な経験を活かし、患者中心の医療を提供するために努力していきたいと思っております。

2年間の研修医生活はとても楽しく充実していました。本当にありがとうございました。

■ 地域医療連携室

地域医療連携室には看護師、社会福祉士・精神保健福祉士、事務員が在籍し、病診連携業務の他、患者さま相談業務やがん相談支援業務などを行っております。

主な業務

- 医療機関との連携に関すること
- 患者紹介窓口(転院相談・FAX 予約)
- 入退院支援
- 外来相談窓口
- 病診連携会の企画・運営
- 地域連携パスの運用
- くまもとメディカルネットワークに関すること

お問い合わせ

熊本総合病院 (代)0965-32-7111 (直通 FAX)0965-32-7207
地域医療連携室 / がん相談支援センター
相談受付時間：月曜日～金曜日(土・日・祝祭日は除く) 8:30～17:00



外来診療の流れ

診察の流れ

一般・専門外来

初診の方は、受付時間内に直接ご来院ください。症状から、どの診療科を受診したらよいか分からない方は、お電話でお問い合わせいただいても結構です。再診の方は、お電話でのご予約ができます。

- 1階・総合案内にお越し下さい。
※紹介状をお持ちの方はご準備ください。また、保険証のご準備もお願いします。
- 診察申込用紙に必要事項をご記入ください。
※再診の方は、診察券をご提出ください。
- 受付票（受付番号）をお渡しします。
※診察券は大切に保管してください。再受診時など、受診される時に提出していただきます。
※受付票の番号は当日の受付番号です。番号で呼びいたしますので紛失されないようお願いいたします。
- 案内に従い、2階診療科ブロック受付前にてお待ちください。
※受付より、診療科をご案内します。診察前に検査等の指示があった場合は指示通りをお願いします。
- 診察が終了しましたら、伝票、処方箋をお渡しいたします。
※総合受付会計窓口へ伝票を提出してお待ち下さい。投薬がある方は、処方箋引換券をお渡しいたします。
- 計算ができましたら、会計窓口より呼びいたします。
※処方箋引換券をお持ちの方は領収印を押しますので、窓口へ提示してください。
- 精算、処方箋のお受け取りが済まれましたら受診は終了です。
※当院では院外処方となっておりますので、処方箋をお持ちの方は院外の薬局にて処方箋を提出し、お薬をお受け取りください。

初診案内

当院を初めて受診される患者さま

初診の方は、下記受付時間内に直接ご来院ください。

- 1階 総合案内にお越し下さい。
- 診察申込用紙に必要事項をご記入し、総合受付へ提出してください。
※保険証・紹介状を添えて、総合受付の新患受付カウンターまで提出してください。
※紹介状などは、必ず新患受付にて提出をお願いいたします。
- 診察券を作成します。
※総合受付ロビーにてお待ちください。
- 受付票をお受け取りください。
※受付票をお受け取りになったら、2階の診療科ブロック受付へ提出し、診療科待合ロビーにてお待ちください。
- 他病院に通院中の方で、当院整形外科を初めて受診される場合には、かかりつけ医からの紹介状をお持ちください。

※外来受付時間

平日 8:30から11:00まで

※初診の方は、上記時間内に直接ご来院ください。
診療科によっては受付時間が上記に限らないこともございます。
※ただし、急患はこの限りではありません。

再診案内

予約券をお持ちの患者さま

1. 自動再来受付機にて受付を済まされてください。
(診察券が必要です)
※診察前に検査等の指示がある場合は、指示通りをお願いいたします。
以降は初診の患者さまと同じ流れでの受診となります。
※診察券をお忘れの方は総合受付にて受付をお願いいたします。
受付時間 8:30~11:00
※11時以降の予約の患者さまは総合受付にて受付をいたします。

予約でない患者さま

1. 総合受付までおいでください。
※予約でない患者さまは総合受付にて受付をいたします。
受付時間 8:00~11:00

予約案内

次回診察日の予約について

受診後、次回の診察が必要な場合は、主治医より診察予約票を発行いたします。
次回診察日は自動再来受付機にて受付を済まされてください。(診察券が必要です)

外来担当医表

令和6年4月1日現在

		月	火	水	木	金	
内	血液内科	再来	山崎 悠佑	江藤 健一郎	岩永 幸太	遠藤 慎也	井崎 幹子
		新患	佐藤 靖彦	井崎 幹子		佐藤 靖彦	
科	消化器内科		吉松 真一	石井 将太郎	吉松 真一	石井 将太郎	吉松 真一
			門脇 義昂	田尻 舞	荒川 大輔	松原 大勇	門脇 義昂
総合診療科			堀野 敬				
腎センター(腎臓内科)		丸目 高大	倉嶋 愛	井上 秀樹	平野 貴博	上村 直道	
糖尿病センター (代謝内科も含む)		本島 寛之	本島 寛之	本島 寛之	本島 寛之	山縣 和也	
		藤本 博樹	蓑田 理彦	高木 優樹	蓑田 理彦	蓑田 理彦	
がんセンター	外科	堀野 敬	池嶋 聡	森田 圭介	上村 紀雄	中村 健一	
	消化器	吉松 真一	石井 将太郎	吉松 真一	石井 将太郎	吉松 真一	
	血液	山崎 悠佑	江藤 健一郎	岩永 幸太	遠藤 慎也	井崎 幹子	
	放射線	古澤 光浩					
心臓病センター	循環器内科	再来	上村 孝史	熊大医師	福嶋 隆一郎	木山 卓也	
		新患	黒川 博文	担当医	木山 卓也	福嶋 隆一郎	上村 孝史
	心臓血管外科	手術	柘植 俊介	柘植 俊介	手術	柘植俊介	
脳卒中センター	脳神経内科	池野 幸一		三隅 洋平	不動 藍生	岡崎 孝広	
	脳神経外科	古賀 一成	天達 俊博	古賀 一成	手術	谷口 あゆみ	
呼吸器センター	呼吸器内科	城基 孝之	非常勤医師	城基 孝之		城基 孝之	
	呼吸器外科	松石 健太郎	熊大医師	松石 健太郎	松石 健太郎	松石 健太郎	
外 科		堀野 敬	島田 信也	森田 圭介	上村 紀雄	中村 健一	
			池嶋 聡		堀野 敬	池嶋 聡	
整形 外科		菊川 憲志	福田 雅俊	菊川 憲志	白石 大偉輔	菊川 憲志	
		白石 大偉輔	生田 純基	荒木 崇士	後生川 輝	荒木 崇士	
		後生川 輝	松原 秀太		福田 雅俊	松原 秀太	
産科 婦人科		吉積 貴子	田中 佳世	田中 博明	田中 佳世	楠木 慎	
		田中 博明	坂田 準	東矢 俊光	東矢 俊光	吉積 貴子	
産科 専門		田中 博明	田中 佳世	田中 博明	田中 佳世	坂田 準	
産科 婦人科 女性 医師 外来			福田 亜紗子		田中 佳世	楠木 慎	
眼科	午前	上村 剛史					
	午後	手術	特殊再来	手術	特殊再来	特殊再来	
耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科		草場 雄基	神崎 順徳	草場 雄基	神崎 順徳	担当医	
	中耳・内耳手術センター	馬淵 大輝		馬淵 大輝			
泌尿器科		川上 茂生	二口 芳樹	本多 次朗	川上 茂生	石崎 宏志	
皮膚科		市村 知佳	市村 知佳	市村 知佳	熊大医師	市村 知佳	
		大潮 雄大	大潮 雄大	大潮 雄大	大潮 雄大		
放射線科		中曽根 豊	中曽根 豊	中曽根 豊		中曽根 豊	
放射線治療科		古澤 光浩					

【受付時間】 平日 8:30~11:00 (ただし、急患はこの限りではありません)

【休診日】 土・日曜日、祝日および年末年始

- ※1 消化器内科の金曜日の肝臓専門外来は、予約・紹介患者のみです。
- ※2 外科の木曜日午後は緩和ケア外来です。(予約制)
- ※3 整形外科外来は初診の場合原則紹介制となります。(ただし、急患及び救急車を除く)
- ※4 眼科の午後は月・水曜日は手術、火・木・金曜日午後は予約患者のみです。
- ※5 耳鼻咽喉科・頭頸部外科の月曜日と木曜日は予約患者のみです。

熊本総合病院 附属クリニック



所長

まつお あきののぶ
松尾 彰宣
Akino Matsuo

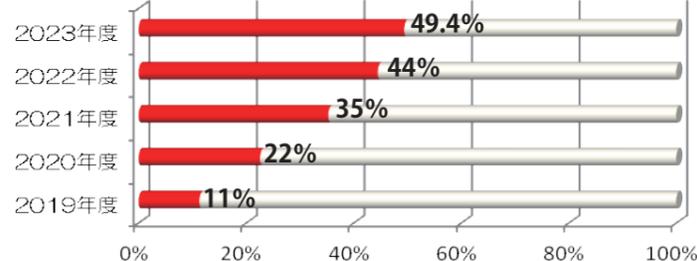
◆専門分野
消化器一般
緩和医療
臨床栄養
在宅医療
外科一般

◆所属学会
日本消化器病学会（専門医）
日本がん治療学会
日本緩和医療学会
日本がん治療認定医機構がん治療（認定医）
日本消化器内視鏡学会（専門医）
日本外科学会（専門医）
日本消化器外科学会（専門医・指導医）
消化器がん外科治療（認定医）
検診マンモグラフィー読影（認定医）
麻酔科医
TNT (total nutritional therapy) 研修会修了
緩和ケア研修会修了（指導者）
日本救急医学会認定ICLS (ACLS基礎) 研修会修了
日本医師会ACLS (二次救命処置) 研修会修了

<現況>

熊本総合病院附属クリニックは、2024年4月1日をもちまして開院から丸5年が経過しました。地域住民の皆様と八代市からの要請を受けて開院しましたが、現在ではたいへん多くの方々に御利用頂いておりまして、特にクリニック近隣(宮地町、西宮町、古麓町、妙見町、東町)に限りますと5年間で住民のほぼ半数が利用されました。

～近隣5地区住民の当クリニックへの受診率の推移～



<診療システム>

熊本総合病院と電子カルテがオンライン接続しており、熊本総合病院での診療状況が把握できますので、熊本総合病院の各科専門医への紹介が必要になった場合でも、多くの方が当クリニック外来で診療引き継ぎが可能です。また、熊本総合病院での骨密度検査やCT、MRI画像検査が、当クリニックから直接予約可能です。

<行政とのつながり>

地域医療は行政の一環として成り立つものです。当クリニックは八代市からの要請を受け開院しておりまして、年1回八代市に詳細なデータを含めた現況報告を行い、担当者と会合し地域への貢献度等に関して客観的評価を受けております。

<最後に>

交通の便に恵まれていない場所にあるにもかかわらず、多くの方々に御利用頂くようになりましたのも、当クリニックが地域の基幹病院である熊本総合病院の一部であることによると思います。当クリニックは小さな医療機関ではありますが、「熊本総合病院と密な連携」ができることを最大限に活用し今後も地域の皆様に貢献して参ります。お困りの際は気軽に御相談ください。気軽に御相談ください。

クリニックから熊本総合病院への紹介



当クリニックから熊本総合病院への紹介の場合
紹介状作成のための費用（診療情報提供料）が無料！

- ▶ 内科 (胃腸内科・消化器内科・循環器内科・呼吸器内科)
- ▶ 外科 ▶ 整形外科

診療時間		月	火	水	木	金	土・日
内科・外科	午前	8:30 ~ 12:00	○	○	○	○	/
	午後	14:00 ~ 17:00	○	○	○	○	/
整形外科	午後	14:00 ~ 16:00	○	/	/	/	/



独立行政法人地域医療機能推進機構(JCHO)

熊本総合病院附属クリニック

〒866-0802 熊本県八代市妙見町145番地

電話 0965-33-3620

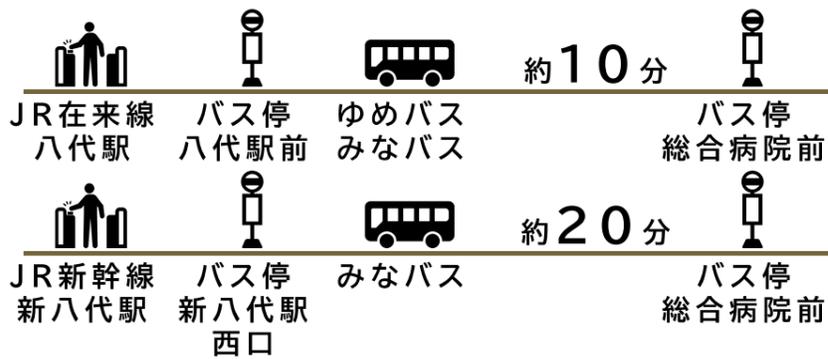
FAX 0965-33-7986



アクセス



■ バスでお越しの場合



■ 車でお越しの場合



駐車場のご利用

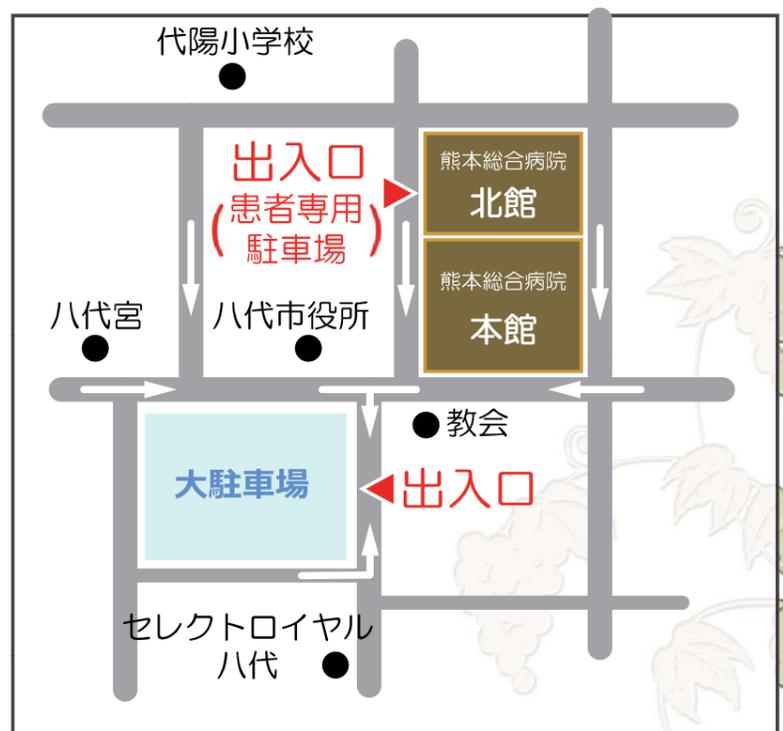
患者専用駐車場

熊本総合病院北館 1階に**患者専用駐車場**をご用意しております。屋内の駐車場ですので天候に左右されずご利用いただけます。**無料**ですが、**認証が必要**です。

大駐車場

基本的に**無料**ですが、平日は当院による**認証が必要**となっております。**土日祝日は市街地活性化のために認証不要**です。

22時以降の駐車はできません。(以降は高額な駐車料となります)



JCHO 熊本総合病院

〒866-8660 熊本県八代市通町10番10号

電話 0965-32-7111(代表)

FAX 0965-32-2772

URL <https://kumamoto.jcho.go.jp/>